

トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業 ○	
科目名	電子回路・テスタ	分類	必修 ・ 選択必修 ・ 選択
履修時期	3年1学期(1級専攻科1年1学期)	時限数	19 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 9 時限 実習: 10 時限 1時限は、90分
授業内容	電子の基礎、外部診断機、テスタの取り扱いを理解する		
修得目標	オームの法則を使用し、回路内の電圧、電流、抵抗が求められるようになる 外部診断器が使えるようになる サーキットテスタの仕組みがわかり、正確な測定ができるようになる		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	電気回路1	回路の概要	31		
2	電気回路2	オームの法則、コイル等の特徴	32		
3	電気回路3	回路の故障	33		
4	電子基礎1	ダイオード、トランジスタ等の種類、特徴1	34		
5	電子基礎2	ダイオード、トランジスタ等の種類、特徴2	35		
6	電子基礎3	ダイオード、トランジスタ等の種類、特徴3	36		
7	サーキットテスタ1	内部構造、特徴、活用法1	37		
8	サーキットテスタ2	内部構造、特徴、活用法2	38		
9	サーキットテスタ3	内部構造、特徴、活用法3	39		
10	サーキットテスタ4	内部構造、特徴、活用法4	40		
11	オシロスコープ1	内部構造、特徴、活用法1	41		
12	オシロスコープ2	内部構造、特徴、活用法2	42		
13	外部診断機取扱1	外部診断機の操作方法	43		
14	外部診断機取扱2	実車取り付け、操作方法確認1	44		
15	外部診断機取扱3	実車取り付け、操作方法確認2	45		
16	外部診断機取扱4	実車取り付け、操作方法確認3	46		
17	外部診断機取扱5	実車取り付け、操作方法確認4	47		
18	外部診断機取扱6	実車取り付け、操作方法確認5	48		
19	学科試験	学科試験(理解度確認) 学期末に確認	49		
20			50		
21			51		
22			52		
23			53		
24			54		
25			55		
26			56		
27			57		
28			58		
29			59		
30			60		

授業外学習	1, 2年次のレポートを確認し、オームの法則を使用した電圧、電流、抵抗の求め方を確認しておく 30分 4時限分の授業レポートをまとめる為に、1~2時間程度の時間が掛かり、これが一日の復習となる
教科書	エンジン電子制御装置(日本自動車整備振興会連合会)
教材	テスタ、外部診断器
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 授業レポートを提出しなければ、試験を受験出来ない。 試験は、学科試験があり、合格点は100点満点の70点以上取らなければ、進級、卒業は出来ない。 不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。 総合評価は、学科試験の点数で評価する。

トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業 ○	
科目名	安全管理	分類	必修 ・ 選択必修 ・ 選択
履修時期	3年1学期(1級専攻科1年1学期)	時限数	10 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 10 時限 実習: 時限 1時限は、90分
授業内容	作業場における安全・衛生について理解する		
修得目標	安全管理の意義、重要性を理解し、安心して学習(仕事)に専念できる環境を作り出すことが出来るようになる。 各種、機器・工具類の安全な取扱いが出来るようになる。 防火・防災、救急処置についての心得と基本的な応急処置を理解することが出来るようになる。 KYTの重要性、効果、実施方法を理解し、実践できるようになる。		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	第1章安全管理の意義	意義、重要性、安全管理と作業能率	31		
2	第2章災害のあらまし	災害発生の仕組み、不安全行動と不安全状態	32		
3	第3章災害防止1	整理・整頓の意義、効果、考え方、物の置き方、管理方法	33		
4	第3章災害防止2	ガレージ・ジャッキ 車種別のリフト・アップの違い、	34		
5	第4章職場における防火防水	防火防災の知識	35		
6	第5章救急処置についての心得	緊急処置の意義、注意事項、緊急処置	36		
7	KYT1	危険予知トレーニング1	37		
8	KYT2	危険予知トレーニング2	38		
9	KYT3	危険予知トレーニング3	39		
10	まとめ、試験	学科試験	40		
11			41		
12			42		
13			43		
14			44		
15			45		
16			46		
17			47		
18			48		
19			49		
20			50		
21			51		
22			52		
23			53		
24			54		
25			55		
26			56		
27			57		
28			58		
29			59		
30			60		

授業外学習	基礎のレポート及びトヨタサービス技術テキスト 導入教育編 3、「安全・基本作業」の項目を確認しておく 30分 4時限分の授業レポートをまとめる為に、1~2時間程度の時間が掛かり、これが一日の復習となる
教科書	総合診断・環境保全・安全管理(日本自動車整備振興会連合会)
教材	なし
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 授業レポートを提出しなければ、試験を受験出来ない。 試験は、学科試験があり、合格点は100点満点の70点以上取らなければ、進級、卒業は出来ない。 不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。 総合評価は、学科試験の点数で評価する。

トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業	○
科目名	エンジン工学 I	分類	必修・選択必修・選択
履修時期	3年1学期(1級専攻科1年1学期)	時限数	50 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照	学科:	10.5 時限
		実習:	39.5 時限 1時限は、90分
授業内容	TCCSの作動研究及び故障診断方法を修得する。		
修得目標	センサーの作動特性がわかる センサーの回路構成がわかり、回路図を読み取ることができる センサーの回路図を使い、故障探求ができる		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	EFIとは1	TCCS-EFIの概要、構成1	31	構造、機能、点検11	TDI(トヨタダイレクトイグニッション)
2	EFIとは2	TCCS-EFIの概要、構成2	32	構造、機能、点検12	ISC(アイドル回転数制御)の概要、構成1
3	外部診断機1	取り扱い1	33	構造、機能、点検13	ISC(アイドル回転数制御)の概要、構成2
4	外部診断機2	取り扱い2	34	故障診断の考え方1	故障診断全体の考え方、問診について1
5	センサ:	電源	35	故障診断の考え方2	故障診断全体の考え方、問診について2
6	構造、機能、点検1	センサの種類、回路、異常検知1	36	故障診断の考え方3	現象の確認と再現方法、故障か否かの判断1
7	構造、機能、点検2	センサの種類、回路、異常検知2	37	故障診断の考え方4	現象の確認と再現方法、故障か否かの判断2
8	構造、機能、点検3	吸入空気量(インテークマニホールド)と基本噴射時間	38	故障診断の考え方5	故障診断フローチャートについて1
9	構造、機能、点検4	走行状態のインテークマニホールド負圧	39	故障診断の考え方6	故障診断フローチャートについて2
10	構造、機能、点検5	噴射時間及びスピードメータ信号の観測	40	故障診断の考え方7	電子技術マニュアル及び配線図確認1
11	構造、機能、点検6	インテークマニホールド負圧とPIM電圧の関係	41	故障診断の考え方8	電子技術マニュアル及び配線図確認2
12	構造、機能、点検7	回転(Ne・G)信号の観測	42	診断点検作業要領1	パワーバランス、リッチリーンによる
13	構造、機能、点検8	冷却水温度とTHW電圧の関係観測	43	診断点検作業要領2	故障部位の絞込み
14	構造、機能、点検9	始動時の噴射時間	44	診断点検作業要領3	基本的な診断技法
15	構造、機能、点検10	始動後(暖機時)の噴射時間	45	診断点検作業要領4	(エンジンの基本3要素による点検)
16	構造、機能、点検11	フィードバック制御(Ox信号)の観測	46	診断点検作業要領5	外部診断機を用いた点検
17	構造、機能、点検12	スロットル開度とVTA&IDL電圧、	47	W/Hの点検	W/H導通点検及び絶縁点検
18	構造、機能、点検13	加速時の噴射時間の観測	48	まとめ1	学科試験
19	構造、機能、点検14	フューエルカット制御と各種補正の観測	49	まとめ2	実技試験
20	アクチュエータ:	アクチュエータの種類、回路、異常検知1	50	まとめ3	実技試験
21	構造、機能、点検1	アクチュエータの種類、回路、異常検知2	51		
22	構造、機能、点検2	フューエルポンプ制御1	52		
23	構造、機能、点検3	フューエルポンプ制御2	53		
24	構造、機能、点検4	ESA(点火時期制御)の概要、構成	54		
25	構造、機能、点検5	構成確認	55		
26	構造、機能、点検6	エンジン負荷と点火時期の関係観測	56		
27	構造、機能、点検7	始動時制御、補正進角の関係観測	57		
28	構造、機能、点検8	IGtとIGf信号の観測	58		
29	構造、機能、点検9	点火一次電圧&電流波形の観測	59		
30	構造、機能、点検10	ノックコントロール制御の観測	60		

授業外学習	1, 2年次のレポートを確認し、トヨタサービス技術テキスト1,2ステップの項目「ガソリンエンジン」を確認しておく。60分4時限分の授業レポートをまとめる為に、1~2時間程度の時間が掛かり、これが一日の復習となる
教科書	エンジン電子制御装置(日本自動車整備振興会連合会)
教材	ベンチエンジン1G、ベンチエンジン1NR、サーキットテスター、外部診断器
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 授業レポートを提出しなければ、試験を受験出来ない。 試験は、学科、実技試験があり、合格点は100点満点の70点以上取らなければ、進級、卒業は出来ない。 不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。 総合評価は、学科、実技試験の点数を合計したものが評価となる。

トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業 ○	
科目名	制動システム工学	分類	必修 ・ 選択必修 ・ 選択
履修時期	3年1学期(1級専攻科1年1学期)	時限数	50 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 37.5 時限 実習: 12.5 時限 1時限は、90分
授業内容	ABSの作動研究及び故障診断方法を修得する		
修得目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作動を理解し、テスターや外部診断器を用いたABSシステムの診断が出来る</li> <li>・回路構成を理解し、正常または異常時の電圧変化を考える事が出来る</li> <li>・故障診断技術を修得し、不具合箇所を見つける事が出来る</li> </ul>		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	ABSとは1	ABSの概要、構成、構造、機能1	31	不具合点検・診断10	ABS故障診断（ソレノイド系断線）2
2	ABSとは2	ABSの概要、構成、構造、機能2	32	まとめ1	総合検査（ブレーキO/H、エア抜き）1
3	ABSとは3	ABSの概要、構成、構造、機能3	33	まとめ2	総合検査（ブレーキO/H、エア抜き）2
4	ABSとは4	ABSの概要、構成、構造、機能4	34	まとめ3	総合検査（ブレーキO/H、エア抜き）3
5	ABSとは5	ABSの概要、構成、構造、機能5	35	車両安定制御装置1	概要、構造、機能1
6	ABSとは6	ABSの概要、構成、構造、機能6	36	車両安定制御装置2	概要、構造、機能2
7	ABS研究1	ABSの作動原理と制御概要(作動確認を含む)	37	車両安定制御装置3	TRC構造機能1
8	ABS研究2	ABSアクチュエータの作動1	38	車両安定制御装置4	TRC構造機能2
9	ABS研究3	ABSアクチュエータの作動2	39	車両安定制御装置5	VSC構造機能1
10	ABS研究4	ABS作動時と非作動時の比較、ABSの有効性1	40	車両安定制御装置6	VSC構造機能2
11	ABS研究5	ABS作動時と非作動時の比較、ABSの有効性2	41	車両安定制御装置7	車両確認、データ分析1
12	ABS研究6	ABSの特有動作確認	42	車両安定制御装置8	車両確認、データ分析2
13	ABS点検1	外部診断機取扱い(アクティブテスト含む)1	43	車両安定制御装置9	車両確認、データ分析3
14	ABS点検2	外部診断機取扱い(アクティブテスト含む)2	44	車両安定制御装置10	故障診断1
15	ABS点検3	ABSセンサ点検1	45	車両安定制御装置11	故障診断2
16	ABS点検4	ABSセンサ点検2	46	まとめ1	まとめ1
17	ABS点検5	ABSアクチュエータ点検1	47	まとめ2	まとめ2
18	ABS点検6	ABSアクチュエータ点検2	48	試験1	試験(学科)
19	ABS点検7	ABSアクチュエータ点検3	49	試験2	試験(実技)
20	ABSの故障診断1	ABS故障診断の考え方及び手順1	50	試験3	試験(実技)
21	ABSの故障診断2	ABS故障診断の考え方及び手順2	51		
22	不具合点検・診断1	ダイアグノーシスによる不具合点検	52		
23	不具合点検・診断2	外部診断器による不具合点検	53		
24	不具合点検・診断3	ABS故障診断 (ABSリレー不良) 1	54		
25	不具合点検・診断4	ABS故障診断 (ABSリレー不良) 2	55		
26	不具合点検・診断5	ABS故障診断 (SPDセンサー不良) 1	56		
27	不具合点検・診断6	ABS故障診断 (SPDセンサー不良) 2	57		
28	不具合点検・診断7	ABS故障診断 (ECU不良) 1	58		
29	不具合点検・診断8	ABS故障診断 (ECU不良) 2	59		
30	不具合点検・診断9	ABS故障診断 (ソレノイド系断線) 1	60		

授業外学習	1, 2年次のレポートを確認し、トヨタサービス技術テキスト1, 2ステップ『ブレーキ装置』の項目を確認しておく。60分4時限分の授業レポートをまとめる為に、1~2時間程度の時間が掛かり、これが一日の復習となる
教科書	シヤン電子制御装置(日本自動車整備振興会連合会)、自動車新技術(日本自動車整備振興会連合会)、トヨタサービス技術テキスト第3ステップ
教材	アコード、マークII、サーキットテスター、外部診断器
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。授業レポートを提出しなければ、試験を受験出来ない。試験は、学科、実技試験があり、合格点は100点満点の70点以上取らなければ、進級、卒業は出来ない。不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。総合評価は、学科、実技試験の点数を合計したものが評価となる。

トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業 ○	
科目名	駆動システム工学	分類	必修・選択必修・選択
履修時期	3年1学期(1級専攻科1年1学期)	時限数	50 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 38 時限 実習: 12 時限 1時限は、90分
授業内容	ECTの作動研究及び故障診断方法を修得する。		
修得目標	オートマチックトランスミッションの構造、作動を理解し現象確認及び正常、異常の判断が出来るようになる。 ECTのセンサ、アクチュエータ、コントロールユニットの回路構成、信号形態、異常検知、回路点検を理解する事が出来るようになる。 診断器、テスターを利用したECTの故障診断を行うことが出来るようになる。 CVTの構造、作動、電子制御機能を理解し診断器を用いたデータの確認、点検が出来るようになる。		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	オートマチックミッション1	構造、作動の復習	31	総合検査1	検査方法確認
2	オートマチックミッション2	フリユードの種類など	32	総合検査2	自動車性能確認
3	ECTとは1	ECTの概要と構成確認1	33	CVT1	概要
4	ECTとは2	ECTの概要と構成確認2	34	CVT2	構造、機能、油圧制御
5	ECTとは3	スロットル開度と車速の関係観測	35	CVT3	分解1
6	ECTとは4	車速信号の観測、変速点検	36	CVT4	分解2
7	ECTとは5	ブラネタリギヤ及びシフトバルブ確認	37	CVT5	電子制御機能
8	ECTとは6	シフトロック機構及びアンチスロット制御確認	38	CVT6	データ確認1
9	ECTとは7	診断機による基本点検及びデータモニター1	39	CVT7	データ確認2
10	ECTとは8	診断機による基本点検及びデータモニター2	40	CVT8	点検1
11	ECTとは9	診断機による基本点検及びデータモニター3	41	CVT9	点検2
12	ECTとは10	診断機による基本点検及びデータモニター4	42	CVT10	点検3
13	ECT故障診断1	故障診断の考え方1	43	まとめ1	自主研究1
14	ECT故障診断2	故障診断の考え方2	44	まとめ2	自主研究2
15	ECT不具合点検、故障診断1	各センサー異常時の走行状態の確認1	45	まとめ3	自主研究3
16	故障診断1	各センサー異常時の走行状態の確認2	46	まとめ4	自主研究4
17	ECT不具合点検、故障診断2	走行テストによる不具合点検(マニュアル走行テスト)1	47	まとめ5	自主研究5
18	故障診断2	走行テストによる不具合点検(マニュアル走行テスト)2	48	試験1	試験(学科)
19	ECT不具合点検、故障診断3	ダイアグノースによる不具合点検1	49	試験2	試験(実技)
20	故障診断3	ダイアグノースによる不具合点検2	50	試験3	試験(実技)
21	ECT不具合点検、故障診断4	診断機による不具合点検1	51		
22	故障診断4	診断機による不具合点検2	52		
23	ECT不具合点検、故障診断5	故障診断(燃費悪い)1	53		
24	故障診断5	故障診断(燃費悪い)2	54		
25	ECT不具合点検、故障診断6	故障診断(燃費悪い)3	55		
26	故障診断6	故障診断(変速せず)1	56		
27	ECT不具合点検、故障診断7	故障診断(変速せず)2	57		
28	故障診断7	故障診断(変速せず)3	58		
29	ECT不具合点検、故障診断8	故障診断(ODランプ消灯せず)1	59		
30	故障診断8	故障診断(ODランプ消灯せず)2	60		

授業外学習	1, 2年次のレポートを確認し、シャシA応用 I 駆動II のレポートを確認しておく 60分 4時限分の授業レポートをまとめる為に、1~2時間程度の時間が掛かり、これが一日の復習となる
教科書	シャシ電子制御装置、自動車新技術(日本自動車整備振興会連合会)
教材	HR33スカイライン、SCP90ヴィッツ、1G-FEベンチエンジン、CVT分解モデル、故障設定BOX、テスタ、外部診断器
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 授業レポートを提出しなければ、試験を受験出来ない。 試験は、学科、実技試験があり、合格点は100点満点の70点以上取らなければ、進級、卒業は出来ない。 不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。 総合評価は、学科、実技試験の点数を合計したものが評価となる。

2019トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業	
科目名	自動車産業研究 I	分類	必修 ・ 選択必修 ・ 選択
履修時期	3年1学期(1級専攻科1年1学期)	時限数	6 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 6 時限 実習: 時限 1時限は、90分
授業内容	自動車産業の変遷をたどり、自動車業界におけるサービスについて考える。		
修得目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車産業の変遷を知る。</li> <li>・トヨタの「販売」や「サービス」のあり方を学ぶ。</li> </ul>		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	概要	開講に当たり 自動車産業の誕生と変遷	31		
2	トヨタ自動車の概要	トヨタ自動車の歴史	32		
3	世界の自動車産業	世界の自動車産業の歴史とこれから(特別講義 館内)	33		
4	自動車市場の概要	トヨタのアフターサービス	34		
5	自動車販売の概要	トヨタの商品企画	35		
6	世界の自動車市場	海外の自動車市場の動向	36		
7			37		
8			38		
9			39		
10			40		
11			41		
12			42		
13			43		
14			44		
15			45		
16			46		
17			47		
18			48		
19			49		
20			50		
21			51		
22			52		
23			53		
24			54		
25			55		
26			56		
27			57		
28			58		
29			59		
30			60		

授業外学修	基礎自動車工学、自動車の歴史を復習 30分
教科書	配布プリント
教材	DVD「遙かなる走路」
総合評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。授業レポートを試験とし、要点のまとめ、文章能力を採点基準として、合格点は100点満点の70点以上の取らなければ進級は出来ない。不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。総合評価は、レポート点が評価となる。

トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業	
科目名	機械工学概論	分類	必修・選択必修・選択
履修時期	3年1学期(1級専攻科1年1学期)	時限数	11 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 11 時限 実習: 時限 1時限は、90分
授業内容	自動車に関する工学の基礎を身に付ける		
修得目標	フックの法則を理解する 熱力学の第1法則、第2法則を理解する ベルヌーイの定理を理解する		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	荷重・応力・歪の関係1	導入、荷重・応力・歪の関係	31		
2	荷重・応力・歪の関係2	フックの法則	32		
3	破損に対する考え方	許容応力、安全率、衝撃応力、疲れ限度	33		
4	熱力学の第1法則	導入、内部エネルギー、エンタルピー	34		
5	熱力学の第2法則	エントロピー	35		
6	ガスサイクル線図	p-V線図とT-S線図	36		
7	流体の動力学1	導入、流体力学の歴史	37		
8	流体の動力学2	流れの種類、ベルヌーイの定理	38		
9	非鉄金属材料1	導入、ゴム、プラスチック材料等の現状	39		
10	非鉄金属材料2	種類・性質・用途	40		
11	学科試験		41		
12			42		
13			43		
14			44		
15			45		
16			46		
17			47		
18			48		
19			49		
20			50		
21			51		
22			52		
23			53		
24			54		
25			55		
26			56		
27			57		
28			58		
29			59		
30			60		

授業外学習	教科書で実施内容の復習 30分
教科書	「わかりやすい機械工学」(森北出版株式会社)
教材	なし
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 試験は、学科試験があり、合格点は100点満点の70点以上取らなければ、進級、卒業は出来ない。 不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。 総合評価は、学科試験の点数で評価する。

トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業	
科目名	工場管理論①	分類	必修・選択必修・選択
履修時期	3年1学期(1級専攻科1年1学期)	時限数	24 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 23 時限 実習: 1 時限 1時限は、90分
授業内容	業務上必要な取り組み姿勢、マナーや業務知識を修得する		
修得目標	仕事に対する取り組み姿勢がわかる 人間関係・マナーがわかる 業務知識とオペレーション能力がわかる		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	整備業界の現状	仕事量・売上・保有台数	31		
2	販売店での取組事項	トヨタサービスが今取り組んでいる事項	32		
3	取組み姿勢	社会人と学生の違い、仕事の心構え、サービスの仕事	33		
4	人間関係・マナー	サービス部門の役割、テク/ショップの販売商品、4Sの推進	34		
5	ご案内・電話の基本	案内の基本、電話の心構え・受け方・取次ぎ方・かけ方	35		
6	部品業務	部品業務の基本	36		
7	整備に伴う帳票1	部品用語の解説・部品翻訳の仕組み	37		
8	整備に伴う帳票2	帳票の記入	38		
9	整備に伴う帳票3	ブロケア10 受注と実作業、帳票の記入	39		
10	整備に伴う帳票4	12ヶ月定期点検 見積書、定期点検整備記録簿の作成	40		
11	保証	保証制度と保証修理・保証修理の役割	41		
12	引渡し前・後の業務	引渡し前の確認・5ポイントチェック・1フォローについて	42		
13	取組み姿勢1	3S精神、基本7項目、仕事の工夫 4S	43		
14	業務知識1	接客対応の基本・名刺の出し方受け方	44		
15	業務知識2	フォロー活動 フォローの方法と特徴・誘致活動	45		
16	業務知識3	予約受付 流れとポイント 受け付け準備	46		
17	業務知識4	受付のポイント、受付の流れ	47		
18	業務知識5	車検の受付 車検に必要な書類、法定費用、	48		
19	業務知識6	車検整備見積書の作成	49		
20	整備中の業務	不正改造への対応	50		
21	引渡し1	保証修理について	51		
22	引渡し2	車両の引渡しについて	52		
23	代金の受領	整備代の精算について	53		
24	取組み姿勢2	仕事を進める基本的な考え方	54		
25			55		
26			56		
27			57		
28			58		
29			59		
30			60		

授業外学習	教科書で実施内容の復習 30分
教科書	トヨタサービス業務テキスト1STEP, 2STEP
教材	なし
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 すべての授業に出席しなければ、試験を受験出来ない。 試験は、学科試験(工場管理論②へ記載)があり、合格点は100点満点の70点以上取らなければ、進級、卒業は出来ない。 不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。 総合評価は、学科試験の点数で評価する。



トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業		
科目名	工場管理論②	分類	必修・選択必修・選択	
履修時期	3年2学期(1級専攻科1年2学期)	時限数	14 時限	
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 13 時限 実習: 1 時限 1時限は、90分	
授業内容	業務上必要な取り組み姿勢、マナーや業務知識を修得する			
修得目標	仕事に対する取り組み姿勢がわかる 人間関係・マナーがわかる 業務知識とオペレーション能力がわかる			

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	業務知識 2Step	まとめ	31		
2	仕事の流れ	仕事のやり方を決める・決める際のポイント	32		
3	職場づくり	指示・命令の受け方、リーダーシップ、OJT,OFF JT	33		
4	受付対応1	入庫の予約について	34		
5	受付対応2	苦情対応のポイント、電話での対応	35		
6	PL法について	製造物責任法と関連の民法について	36		
7	受付・見積り1	事故修理受付 事故連絡時の初期対応	37		
8	受付・見積り2	ボデー構造とボデー構成部品	38		
9	受付・見積り3	事故見積り	39		
10	受付・見積り4	見積書の発行	40		
11	保証	保証修理業務について	41		
12	部品発注	引当部品と引当崩れの返品	42		
13	商品の販売	販売の三原則・購買心理の七段階・用品販売の基礎知識	43		
14	業務知識3Step/試験	まとめ、試験	44		
15			45		
16			46		
17			47		
18			48		
19			49		
20			50		
21			51		
22			52		
23			53		
24			54		
25			55		
26			56		
27			57		
28			58		
29			59		
30			60		

授業外学習	教科書で実施内容の復習 30分
教科書	トヨタサービス業務テキスト2STEP、3STEP
教材	なし
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 すべての授業に出席しなければ、試験を受験出来ない。 試験は、2学期に学科試験があり、合格点は100点満点の70点以上取らなければ、進級、卒業は出来ない。 不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。 総合評価は、学科試験の点数で評価する。

トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業 ○		
科目名	エンジン工学 II	分類	必修 ・ 選択必修 ・ 選択	
履修時期	3年2学期(1級専攻科1年2学期)	時限数	50	時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 14	時限
			実習: 36	時限 1時限は、90分
授業内容	TCCSの作動研究及び故障診断方法を修得する。			
修得目標	アクチュエーターの作動特性がわかる アクチュエーターの回路構成がわかり、回路図を読み取ることができる アクチュエーターの回路図を使い、故障探求ができる			

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	診断点検作業要領1	不具合再現手法1	31	診断まとめ4	故障診断発表2
2	診断点検作業要領2	不具合再現手法2	32	通信信号など	ネットワークについて
3	点検、故障診断1	診断機データ記録と保存1	33	CAN通信1	CAN通信概要1
4	点検、故障診断2	診断機データ記録と保存2	34	CAN通信2	CAN通信概要2
5	点検、故障診断3	診断機データ記録と保存3	35	CAN通信3	車両データ確認1
6	点検、故障診断4	診断機データ記録と保存4	36	CAN通信4	車両データ確認2
7	点検、故障診断5	ECUの各種制御とECU端子電圧の観測1	37	CAN通信5	故障診断1
8	点検、故障診断6	ECUの各種制御とECU端子電圧の観測2	38	CAN通信6	故障診断2
9	点検、故障診断7	ECUの各種制御とECU端子電圧の観測3	39	CAN通信7	故障診断3
10	点検、故障診断8	ECUの各種制御とECU端子電圧の観測4	40	CAN通信8	その他の通信について1
11	点検、故障診断9	故障診断(エンジン始動困難)1	41	CAN通信9	その他の通信について2
12	点検、故障診断10	故障診断(エンジン始動困難)2	42	CAN通信10	その他の通信について3
13	点検、故障診断11	故障診断(エンジン始動困難)3	43	CAN通信11	その他の通信について4
14	点検、故障診断12	故障診断(エンジン始動困難)4	44	まとめ1	車両総合検査、自主研究1
15	点検、故障診断13	故障診断(アイドル不調)1	45	まとめ2	車両総合検査、自主研究2
16	点検、故障診断14	故障診断(アイドル不調)2	46	まとめ3	車両総合検査、自主研究3
17	点検、故障診断15	故障診断(アイドル不調)3	47	まとめ4	車両総合検査、自主研究4
18	点検、故障診断16	故障診断(アイドル不調)4	48	試験1	期 末 試 験 (学科)
19	点検、故障診断17	故障診断(加速不良)1	49	試験2	期 末 試 験 (実技)
20	点検、故障診断18	故障診断(加速不良)2	50	試験3	期 末 試 験 (実技)
21	点検、故障診断19	故障診断(加速不良)3	51		
22	点検、故障診断20	故障診断(加速不良)4	52		
23	点検、故障診断21	故障診断(出力不足・燃費大)1	53		
24	点検、故障診断22	故障診断(出力不足・燃費大)2	54		
25	点検、故障診断23	故障診断(出力不足・燃費大)3	55		
26	点検、故障診断24	故障診断(出力不足・燃費大)4	56		
27	点検、故障診断25	故障診断(出力不足・燃費大)5	57		
28	診断まとめ1	故障診断発表準備1	58		
29	診断まとめ2	故障診断発表準備2	59		
30	診断まとめ3	故障診断発表1	60		

授業外学習	1, 2年次のレポートを確認し、トヨタサービス技術テキスト1,2ステップの項目「ガソリンエンジン」を確認しておく 60分 4時限分の授業レポートをまとめる為に、1~2時間程度の時間が掛かり、これが一日の復習となる
教科書	エンジン電子制御装置(日本自動車整備振興会連合会)
教材	ベンチエンジン1G、ベンチエンジン1NR、サーキットテスター、外部診断器
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 授業レポートを提出しなければ、試験を受験出来ない。 試験は、学科、実技試験があり、合格点は100点満点の70点以上取らなければ、進級、卒業は出来ない。 不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。 総合評価は、学科、実技試験の点数を合計したものが評価となる。

トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業 ○	
科目名	HV機構 I	分類	必修 ・ 選択必修 ・ 選択
履修時期	3年2学期(1級専攻科1年2学期)	時限数	24 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 17 時限 実習: 7 時限 1時限は、90分
授業内容	ハイブリッドシステムの構造・作用を研究する		
修得目標	ハイブリッドシステムの構造が分かり、整備時の注意点を確認することができるようになる ハイブリッドシステムの作用が分かり、共線図を作成することができる		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	THS1	THS概要・構造・機能1	31		
2	THS2	THS概要・構造・機能2	32		
3	THS3	THS概要・構造・機能3 (プラネタリ)	33		
4	THS4	THS概要・構造・機能4	34		
5	THS5	THS概要・構造・機能5	35		
6	THS6	THS概要・構造・機能6	36		
7	THS7	THS概要・構造・機能7	37		
8	THS8	THS概要・構造・機能8	38		
9	THS9	THS概要・構造・機能9	39		
10	THS10	THS概要・構造・機能10	40		
11	THS11	THS概要・構造・機能11	41		
12	THS研究1	走行データ確認1	42		
13	THS研究2	走行データ確認2	43		
14	THS研究3	走行データ確認3	44		
15	THS研究4	走行データ確認4	45		
16	HV取り扱い1	注意点1	46		
17	HV取り扱い2	注意点2	47		
18	点検時の注意点1	定期点検、車検時の注意点1	48		
19	点検時の注意点2	定期点検、車検時の注意点2	49		
20	点検時の注意点3	定期点検、車検時の注意点3	50		
21	点検時の注意点4	定期点検、車検時の注意点4	51		
22	THSまとめ1	まとめ1	52		
23	THSまとめ2	まとめ2	53		
24	学科試験	学科試験	54		
25			55		
26			56		
27			57		
28			58		
29			59		
30			60		

授業外学習	1, 2年次のレポートを確認し、トヨタサービス技術テキスト「ハイブリッドシステム」1,2,3ステップを確認しておく。60分 4時限分の授業レポートをまとめる為に、1~2時間程度の時間が掛かり、これが一日の復習となる
教科書	自動車新技術(日本自動車整備振興会連合会)、トヨタサービス技術テキストハイブリッドシステム
教材	プリウス、アクア、ハイブリッドシステム単体部品、カットモデル、外部診断器
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 授業レポートを提出しなければ、試験を受験出来ない。 試験は、学科試験があり、合格点は100点満点の70点以上取らなければ、進級、卒業は出来ない。 不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。 総合評価は、学科試験の点数で評価する。

トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業 ○	
科目名	空調システム工学	分類	必修 ・ 選択必修 ・ 選択
履修時期	3年2学期(1級専攻科1年2学期)	時限数	37 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 8 時限 実習: 29 時限 1時限は、90分
授業内容	オートA/Cの作動研究及び故障診断方法を修得する		
修得目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作動を理解し、テスターや外部診断器を用いたA/Cシステムの診断が出来る</li> <li>・回路構成を理解し、正常または異常時の電圧変化を考える事が出来る</li> <li>・故障診断技術を修得し、不具合箇所を見つける事が出来る</li> </ul>		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	エアコンとは1	冷凍サイクルの概要と構成、冷媒取扱い	31	故障診断13	故障診断 (内気センサー不良)1
2	エアコンとは2	サイクル内の温度と圧力測定	32	故障診断14	故障診断 (内気センサー不良)2
3	オートエアコンとは1	オートエアコンとマニュアルエアコンの相違点	33	総合検査1	車両による総合検査1
4	オートエアコンとは2	オートエアコンの各制御	34	総合検査2	車両による総合検査2
5	オートエアコンの機能1	温度調節つまみ位置と各制御の変化確認1	35	まとめ1	試験 (学科)
6	オートエアコンの機能2	温度調節つまみ位置と各制御の変化確認2	36	まとめ2	試験 (実技)
7	センサー1	各センサーの単体点検	37	まとめ3	試験 (実技)
8	センサー2	各センサーの信号変化に対する各制御	38		
9	センサー3	各センサー断線時の制御1	39		
10	センサー4	各センサー断線時の制御2	40		
11	サーボモータ1	エアミックスダンパ、内外気切り替えの作動と役目1	41		
12	サーボモータ2	エアミックスダンパ、内外気切り替えの作動と役目2	42		
13	サーボモータ3	エアミックスダンパ、内外気切り替えの作動と役目3	43		
14	サーボモータ4	モード切替用サーボモータの作動と役目	44		
15	温度制御1	設定温度変化に対する制御	45		
16	温度制御2	内気・エバポ後・水温センサー断線時の制御	46		
17	温度制御3	内気・エバポ後・水温センサー短絡時の制御	47		
18	各切り替え制御	TAOと設定温度との差による制御	48		
19	故障診断1	故障診断の考え方1	49		
20	故障診断2	故障診断の考え方2	50		
21	故障診断3	フロンガス回収・再生1	51		
22	故障診断4	フロンガス回収・再生2	52		
23	故障診断5	フロンガス回収・再生3	53		
24	故障診断6	外部診断機による点検	54		
25	故障診断7	故障診断 (ゲージマニホールドによる)	55		
26	故障診断8	故障診断 (冷媒不足)	56		
27	故障診断9	故障診断 (プレッシャースイッチ不良)	57		
28	故障診断10	故障診断 (チェックモード機能)	58		
29	故障診断11	故障診断 (エバポ後センサー不良)	59		
30	故障診断12	故障診断 (THW信号異常)	60		

授業外学習	1, 2年次のレポートを確認し、トヨタサービス技術テキスト1, 2ステップ『電気装置(エアコンディショナ)』の項目を確認しておく。60分4時限分の授業レポートをまとめる為に、1~2時間程度の時間が掛かり、これが一日の復習となる
教科書	ジャン電子制御装置(日本自動車整備振興会連合会)、トヨタサービス技術テキスト第3ステップ
教材	アコード、マークII、サーキットテスター、外部診断器
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。授業レポートを提出しなければ、試験を受験出来ない。試験は、学科、実技試験があり、合格点は100点満点の70点以上取らなければ、進級、卒業は出来ない。不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。総合評価は、学科、実技試験の点数を合計したものが評価となる。

トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業 ○	
科目名	操舵システム工学	分類	必修・選択必修・選択
履修時期	3年2学期(1級専攻科1年2学期)	時限数	37 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 5 時限 実習: 32 時限 1時限は、90分
授業内容	EPSの作動研究及び故障診断方法を修得する		
修得目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作動を理解し、テスターや外部診断器を用いたEPSシステムの診断が出来る</li> <li>・回路構成を理解し、正常または異常時の電圧変化を考える事が出来る</li> <li>・故障診断技術を修得し、不具合箇所を見つける事が出来る</li> </ul>		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	EPSとは1	EPSの概要、構成、構造、機能1	31	まとめ1	総合検査方法確認1
2	EPSとは2	EPSの概要、構成、構造、機能2	32	まとめ2	総合検査方法確認2
3	EPSとは3	EPSの概要、構成、構造、機能3 (PS復習)	33	まとめ3	総合検査方法確認3
4	EPSとは4	EPSの概要、構成、構造、機能4	34	まとめ4	総合検査方法確認4
5	油圧PS1	作動油圧点検	35	まとめ5	試験(学科)
6	油圧PS2	車速感応、回転数感応	36	まとめ6	試験(実技)
7	EPS研究1	EPSコンピュータ確認1	37	まとめ7	試験(実技)
8	EPS研究2	EPSコンピュータ確認2	38		
9	EPS研究3	EPSコンピュータ確認3(内装パネル取り外し)	39		
10	EPS研究4	車速信号と制御信号波形点検1	40		
11	EPS研究5	車速信号と制御信号波形点検2	41		
12	EPS研究6	車速信号と制御信号波形点検3(デューティ比測定)	42		
13	EPS研究7	車速信号と制御信号波形点検4	43		
14	EPS研究8	アクチュエータ確認1	44		
15	EPS研究9	アクチュエータ確認2	45		
16	EPS研究10	アクチュエータ確認3	46		
17	EPS研究11	ステアリング操舵力点検	47		
18	EPS故障診断1	EPSの故障診断の考え方、手順について1	48		
19	EPS故障診断2	EPSの故障診断の考え方、手順について2	49		
20	不具合点検、故障診断1	EPSの故障時の作動(フェイルセーフ機能)確認1	50		
21	不具合点検、故障診断2	EPSの故障時の作動(フェイルセーフ機能)確認2	51		
22	不具合点検、故障診断3	電源系 不具合1	52		
23	不具合点検、故障診断4	電源系 不具合2	53		
24	不具合点検、故障診断5	電源系 不具合3	54		
25	不具合点検、故障診断6	センサ系 不具合1	55		
26	不具合点検、故障診断7	センサ系 不具合2	56		
27	不具合点検、故障診断8	センサ系 不具合3	57		
28	不具合点検、故障診断9	アクチュエータ系 不具合1	58		
29	不具合点検、故障診断10	アクチュエータ系 不具合2	59		
30	不具合点検、故障診断11	アクチュエータ系 不具合3	60		

授業外学習	1, 2年次のレポートを確認し、トヨタサービス技術テキスト1, 2ステップ『ステアリング装置』の項目を確認しておく。60分4時限分の授業レポートをまとめる為に、1~2時間程度の時間が掛かり、これが一日の復習となる
教科書	ジャン電子制御装置(日本自動車整備振興会連合会)、トヨタサービス技術テキスト第3ステップ
教材	アコード、ウィッツ、サーキットテスター、外部診断器
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。授業レポートを提出しなければ、試験を受験出来ない。試験は、学科、実技試験があり、合格点は100点満点の70点以上取らなければ、進級、卒業は出来ない。不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。総合評価は、学科、実技試験の点数を合計したものが評価となる。

トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業 ○	
科目名	振動・騒音工学①	分類	必修・選択必修・選択
履修時期	3年2学期(1級専攻科1年2学期)	時限数	30 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 12.5 時限 実習: 17.5 時限 1時限は、90分
授業内容	振動騒音の発生メカニズムと故障診断方法を修得する。		
修得目標	振動・騒音の基礎知識を学び、自動車で発生する各現象の発生メカニズムを理解することが出来るようになる。 自動車で発生する各振動・騒音の現象を体験し、的確な現象判断が出来るようになる。 振動・騒音に関する故障診断方法について学び、故障診断に伴う計測機器を取り扱う事が出来るようになる。		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	基礎知識1	振動と音、振動の種類(CD-ROM)	31		
2	基礎知識2	振動と音の伝わり方	32		
3	基礎知識3	振動源(振動強制力): エンジンのトルク変動	33		
4	基礎知識4	": タイヤのバランスと振れ	34		
5	基礎知識5	": タイヤのユニフォミティ	35		
6	基礎知識6	": プロペラシャフト1次振動	36		
7	基礎知識7	": プロペラシャフト2次振動	37		
8	基礎知識8	共振と自動車の振動・騒音、周波数の求め方	38		
9	基礎知識9	振動と騒音(音圧レベル)の表し方	39		
10	基礎知識10	自動車のボデー振動(シェイク・フラッタ)	40		
11	基礎知識11	": (こもり音)	41		
12	基礎知識12	": (ビート音)	42		
13	体感1	官能評価の重要性とフラッタの体感、観測	43		
14	体感2	官能評価の重要性と1次2次振動の体感、観測	44		
15	体感3	": こもり音・ビート音の体感、観測	45		
16	体感4	タイヤの振れ点検	46		
17	体感5	ブレーキローター・ハブの振れ点検	47		
18	体感6	ドライブラインアングルゲージ取扱い	48		
19	故障診断の考え方1	故障診断の進め方、流れ1	49		
20	故障診断の考え方2	故障診断の進め方、流れ2	50		
21	故障診断の考え方3	故障診断の進め方、流れ3	51		
22	故障診断の考え方4	故障診断の進め方、流れ4	52		
23	故障診断の考え方5	4輪アライメントテスト 取り扱い1	53		
24	故障診断の考え方6	4輪アライメントテスト 取り扱い2	54		
25	故障診断の考え方7	測定・検査導入	55		
26	機器取扱1	周波数分析機及び騒音計の取扱い方法	56		
27	機器取扱2	": (正常な車両)	57		
28	機器取扱3	": ( " )	58		
29	車両検査1	点検前の総合検査1	59		
30	車両検査2	点検前の総合検査2	60		

授業外学習	基本Ⅰ、基本Ⅱ、基本Ⅲのレポートを確認し、自動車部品の構造・作動を理解しておく 60分 4時限分の授業レポートをまとめる為に、1~2時間程度の時間が掛かり、これが一日の復習となる
教科書	シャン電子制御装置(日本自動車整備振興会連合会)
教材	ZN6(86),ACU25W(クルーガー),GX110(マークII),GRS182(クラウン),UCF31(セルシオ), UZS175(クラウン),JZS175(クラウン),JCG11(プログレ),ANE11W(ウィッシュ) 車両加振機、振動騒音分析器、ノイズ感知テスト、タイヤチェンジャ、ホイールバランス、ローター研磨機、 4輪アライメントテスト、ダイヤルゲージ、ドライブアングルゲージ
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 授業レポートを提出しなければ、試験を受験出来ない。 試験は、学科、実技試験(振動・騒音工学②へ記載)があり、合格点は100点満点の70点以上取らなければ、進級、卒業は出来ない。不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。 総合評価は、学科、実技試験の点数を合計したものが評価となる。

トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業 ○	
科目名	振動・騒音工学②	分類	必修・選択必修・選択
履修時期	3年2学期(1級専攻科1年2学期)	時限数	30 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 2.5 時限 実習: 27.5 時限 1時限は、90分
授業内容	振動騒音の発生メカニズムと故障診断方法を修得する。		
修得目標	周波数分析器・騒音計を用いた故障診断が出来るようになる。 不具合箇所の修正方法と修正機器の取り扱いについて学び、修正作業を行う事が出来るようになる。		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	振動・騒音故障診断1	車両の故障診断と修理 (フロベリシャフト・アンバランス)	31		
2		〃 (原因の確定と周波数分析機及び騒音計による確認)	32		
3	振動・騒音故障診断2	車両の故障診断と修理 (フロベリシャフト・ジョイント角)	33		
4		〃 (原因の確定と周波数分析機及び騒音計による確認)	34		
5	振動・騒音故障診断3	車両の故障診断と修理 (FRタイヤ・アンバランス)	35		
6		〃 (原因の確定と周波数分析機及び騒音計による確認)	36		
7	振動・騒音故障診断4	車両の故障診断と修理 (ドライブシャフト・アンバランス)	37		
8		〃 (原因の確定と周波数分析機及び騒音計による確認)	38		
9	振動・騒音故障診断5	車両の故障診断と修理 (FFタイヤ・アンバランス)	39		
10		〃 (原因の確定と周波数分析機及び騒音計による確認)	40		
11	振動・騒音故障診断6	車両の故障診断と修理 (電動ファン・アンバランス)	41		
12		〃 (原因の確定と周波数分析機及び騒音計による確認)	42		
13	振動・騒音故障診断7	車両の故障診断と修理 (タイヤユニフォーム不良)	43		
14		〃 (原因の確定と周波数分析機及び騒音計による確認)	44		
15	振動・騒音故障診断8	車両の故障診断と修理 (コンパニオンフランジホルト不良)	45		
16		〃 (原因の確定と周波数分析機及び騒音計による確認)	46		
17	総合検査1	車体検査、復元1	47		
18	総合検査2	車体検査、復元2	48		
19	修正方法1	プレーキローター研磨1	49		
20	修正方法2	プレーキローター研磨2	50		
21	修正方法3	プレーキローター研磨3	51		
22	修正方法4	機械工作 (グラインダー等の取扱い)1	52		
23	修正方法5	機械工作 (グラインダー等の取扱い)2	53		
24	修正方法6	機械工作 (グラインダー等の取扱い)3	54		
25	修正方法7	タイヤチェンジャー取扱い1	55		
26	修正方法8	タイヤチェンジャー取扱い2	56		
27	修正方法9	タイヤチェンジャー取扱い3	57		
28	まとめ1	試験 (学科)	58		
29	まとめ2	試験 (実技)	59		
30	まとめ3	試験 (実技)	60		

授業外学習	基本Ⅰ、基本Ⅱ、基本Ⅲのレポートを確認し、自動車部品の構造作動を理解しておく 30分 4時限分の授業レポートをまとめる為に、1～2時間程度の時間が掛かり、これが一日の復習となる
教科書	シャン電子制御装置(日本自動車整備振興会連合会)
教材	ZN6(86),ACU25W(クルーガー),GX110(マークII),GRS182(クラウン),UCF31(セルシオ), UZS175(クラウン),JZS175(クラウン),JCG11(プロダレ),ANE11W(ウィッシュ) 車両加振機、振動騒音分析器、ノイズ感知テスト、タイヤチェンジャー、ホイールバランス、ローター研磨機、 4輪アライメントテスト、ダイヤルゲージ、ドライブアングルゲージ
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 授業レポートを提出しなければ、試験を受験出来ない。 試験は、学科、実技試験があり、合格点は100点満点の70点以上取らなければならない。進級、卒業は出来ない。 不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。 総合評価は、学科、実技試験の点数を合計したものが評価となる。

トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業	
科目名	環境保全	分類	必修・選択必修・選択
履修時期	3年2学期(1級専攻科1年2学期)	時限数	14 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 14 時限 実習: 時限 1時限は、90分
授業内容	環境の保全や改善、環境教育の推進法を修得する。		
修得目標	環境保全の現状と必要性について学び、自動車業界での対応について理解することが出来るようになる。 廃棄物処理について学び、適切な対応を実践することが出来るようになる。		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	地球規模の環境保全	環境保全の現状・環境保全の必要性	31		
2	校内の環境保全	ISO14001 処理作業手順の実習…新入職員と一緒に説明	32		
3	資源のの有効利用	資源の有効利用による社会的貢献	33		
4	産業廃棄物の処理	産業廃棄物とは、マニフェスト制度と、リサイクル法	34		
5	フロン回収・破壊の処理	フロンおよび紫外線について、フロンの製品区分・関係者の役割	35		
6	PRTR法	環境への影響	36		
7	環境保全について	整備工場の環境対応	37		
8	環境マネージメント1	環境に対する社会や産業の動き	38		
9	環境マネージメント2	基本理念・地球環境憲章、取組みプラン	39		
10	製品開発・設計1	環境コストマネージメント、製品と環境問題、燃費の向上、	40		
11	製品開発・設計2	交通流の改善 ITS、ETC、VICS	41		
12	調達・生産1	調達 仕入先との連携	42		
13	調達・生産2	化学物質管理、	43		
14	試験	試験 (学科)	44		
15			45		
16			46		
17			47		
18			48		
19			49		
20			50		
21			51		
22			52		
23			53		
24			54		
25			55		
26			56		
27			57		
28			58		
29			59		
30			60		

授業外学習	自動車から排出される環境負荷物質と、その対応・管理・廃棄方法を確認しておく 60分 4時限分の授業レポートをまとめる為に、1~2時間程度の時間が掛かり、これが一日の復習となる
教科書	総合診断・環境保全・安全管理(日本自動車整備振興会連合会)
教材	なし
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 授業レポートを提出しなければ、試験を受験出来ない。 試験は、学科試験があり、合格点は100点満点の70点以上取らなければ、進級、卒業は出来ない。 不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。 総合評価は、学科試験の点数で評価する。



トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業 ○	
科目名	総合診断①	分類	必修 ・ 選択必修 ・ 選択
履修時期	3年2学期(1級専攻科1年2学期)	時限数	16 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 16 時限 実習: 時限 1時限は、90分
授業内容	受付・問診・作業説明・引渡しなどの接客対応を修得する。		
修得目標	日本の産業とサービス産業としての自動車整備事業について学び、理解することが出来るようになる。 受付・問診・作業説明・引渡し及び苦情対応の接客方法について学び、基本的な接客対応が出来るようになる。 環境、消費者契約法、会社組織について学び、理解することが出来るようになる。		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	整備事業について	概要、自動車整備事業	31		
2	総合診断、整備計画	受付と問診	32		
3	品質管理、引渡し	整備計画	33		
4	整備後の支援体制	整備料金、調子伺い	34		
5	保証と苦情	苦情対応の留意点	35		
6	接客の基本1	総合診断における接客の基本心得と接客手法	36		
7	接客の基本2	接客の基本用語…接客対応七大用語	37		
8	接客の基本3	お客様のタイプと対応(考え方)	38		
9	法令の運用と活用	自動車使用者の保守管理	39		
10	機能低下理由1	長期使用における経年変化と機能低下の理由付け1	40		
11	機能低下理由2	長期使用における経年変化と機能低下の理由付け2	41		
12	環境・周辺生活環境	大気汚染と地球温暖化、振動・騒音による生活環境の悪化	42		
13	消費者契約法の遵守	消費者契約法の要旨、適用される事例	43		
14	会社の組織について	自動車に関する総合診断のまとめ	44		
15	第2章応酬話法	一般的な会社組織についてのパートII 店舗の組織	45		
16	試 験	総合診断模擬試験問題	46		
17			47		
18			48		
19			49		
20			50		
21			51		
22			52		
23			53		
24			54		
25			55		
26			56		
27			57		
28			58		
29			59		
30			60		

授業外学習	2年次のレポートを確認し、記録簿の見方、基本的な自動車の構造・作動、油脂類の交換時期、法令について確認しておく。60分4時限分の授業レポートをまとめる為に、1~2時間程度の時間が掛かり、これが一日の復習となる
教科書	総合診断、環境保全、安全管理(日本自動車整備振興会連合会)
教材	なし
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 授業レポートを提出しなければ、試験を受験出来ない。 試験は、学科試験があり、合格点は100点満点の70点以上取らなければならない。進級、卒業は出来ない。 不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。 総合評価は、学科、実技試験の点数を合計したものが評価となる。

トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業 ○	
科目名	総合診断②	分類	必修 ・ 選択必修 ・ 選択
履修時期	3年2学期(1級専攻科1年2学期)	時限数	16 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 16 時限 実習: 時限 1時限は、90分
授業内容	受付・問診・作業説明・引渡しなどの積極応対を修得する。		
修得目標	実際の接客対応を想定した応酬話法の具体例を学び、より実践的な接客対応が出来るようになる。		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	応酬話法の具体例1	定期点検整備ケース1	31		
2	応酬話法の具体例2	2年定期点検整備の問診・診断1	32		
3	応酬話法の具体例3	2年定期点検整備の問診・診断2	33		
4	応酬話法の具体例4	整備完了の連絡、整備内容の説明、など	34		
5	応酬話法の具体例5	定期点検整備ケース2	35		
6	応酬話法の具体例6	整備計画1	36		
7	応酬話法の具体例7	整備計画2	37		
8	応酬話法の具体例8	車検整備ケース	38		
9	応酬話法の具体例9	故障整備ケース1	39		
10	応酬話法の具体例10	故障整備ケース2	40		
11	応酬話法の具体例11	故障整備ケース3	41		
12	応酬話法の具体例12	着色フィルムの貼付依頼(透過率不足)	42		
13	応酬話法の具体例13	定期点検整備の必要性1	43		
14	応酬話法の具体例14	定期点検整備の必要性2	44		
15	応酬話法の具体例15	フォグランプの取付依頼の対応	45		
16	総合診断口述試験	総合診断口述試験	46		
17			47		
18			48		
19			49		
20			50		
21			51		
22			52		
23			53		
24			54		
25			55		
26			56		
27			57		
28			58		
29			59		
30			60		

授業外学習	2年次のレポートを確認し、記録簿の見方、基本的な自動車の構造・作動、油脂類の交換時期、法令について確認しておく。60分4時限分の授業レポートをまとめる為に、1~2時間程度の時間が掛かり、これが一日の復習となる
教科書	総合診断、環境保全、安全管理(日本自動車整備振興会連合会)
教材	なし
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 授業レポートを提出しなければ、試験を受験出来ない。 試験は、口述試験(実技)があり、合格点は100点満点の70点以上取らなければ、進級、卒業は出来ない。 不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。 総合評価は、学科、実技試験の点数を合計したものが評価となる。

トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業	
科目名	社会学	分類	必修・選択必修・選択
履修時期	3年3学期(1級専攻科1年3学期)	時限数	10 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 10 時限 実習: 時限 1時限は、90分
授業内容	社会人として必要な一般常識、話し方を身に付ける		
修得目標	一般常識問題(SPI3)の基本的考え方が身に付く 社会人として「自己紹介」が出来る お客様からの質問に対し、的確に答えることが出来る		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	一般常識1	実力テスト	31		
2	一般常識2	宿題答え合わせ1	32		
3	一般常識3	宿題答え合わせ2	33		
4	自己紹介1	ポイント説明	34		
5	自己紹介2	自己紹介1	35		
6	自己紹介3	自己紹介2	36		
7	お客様とのQ&A1	オイル関係、燃料・エンジン関係	37		
8	お客様とのQ&A2	タイヤ関係	38		
9	お客様とのQ&A3	AT・4WD関係、安全装置	39		
10	学科試験	学科試験	40		
11			41		
12			42		
13			43		
14			44		
15			45		
16			46		
17			47		
18			48		
19			49		
20			50		
21			51		
22			52		
23			53		
24			54		
25			55		
26			56		
27			57		
28			58		
29			59		
30			60		

授業外学習	SPI3テキストの指定問題実施 60分
教科書	「SPI3&テストセンター」
教材	なし
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 試験は、学科試験があり、合格点は100点満点の70点以上取らなければならない。進級、卒業は出来ない。 不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。 総合評価は、学科試験の点数で評価する。

トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業 ○	
科目名	HV機構Ⅱ	分類	必修 ・ 選択必修 ・ 選択
履修時期	3年3学期(1級専攻科1年3学期)	時限数	24 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 時限 実習: 24 時限 1時限は、90分
授業内容	ハイブリットシステムの故障診断方法を修得する		
修得目標	ハイブリットシステム特有の診断方法を修得し、故障診断ができる		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	THS研究1	定期点検、車検時のHV関連付加作業1	31		
2	THS研究2	定期点検、車検時のHV関連付加作業2	32		
3	THS研究3	定期点検、車検時のHV関連付加作業3	33		
4	THS研究4	定期点検、車検時のHV関連付加作業4	34		
5	THS研究5	HV/バッテリー脱着1	35		
6	THS研究6	HV/バッテリー脱着2	36		
7	THS研究7	HV/バッテリー脱着3	37		
8	THS研究8	HV/バッテリー脱着4	38		
9	THS研究9	パワーコントロールユニット脱着1	39		
10	THS研究10	パワーコントロールユニット脱着2	40		
11	THS研究11	パワーコントロールユニット脱着3	41		
12	THS研究12	パワーコントロールユニット脱着4	42		
13	故障診断1	補記バッテリー上がり1	43		
14	故障診断2	補記バッテリー上がり2	44		
15	故障診断3	HV/バッテリー系統不具合1	45		
16	故障診断4	HV/バッテリー系統不具合2	46		
17	故障診断5	パワーコントロールユニット系統不具合1	47		
18	故障診断6	パワーコントロールユニット系統不具合2	48		
19	故障診断7	ECU系統不具合1	49		
20	故障診断8	ECU系統不具合2	50		
21	故障診断9	他の不具合、高電圧絶縁点検1	51		
22	故障診断10	他の不具合、高電圧絶縁点検2	52		
23	実技試験1	実技試験	53		
24	実技試験2	実技試験	54		
25			55		
26			56		
27			57		
28			58		
29			59		
30			60		

授業外学習	3年1学期のレポートとトヨタサービス技術テキスト「ハイブリットシステム」4ステップを確認しておく。60分 4時限分の授業レポートをまとめる為に、1~2時間程度の時間が掛かり、これが一日の復習となる
教科書	自動車新技術(日本自動車整備振興会連合会)、トヨタサービス技術テキストハイブリットシステム
教材	プリウス、外部診断器、サーキットテスター、絶縁工具、絶縁手袋
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 授業レポートを提出しなければ、試験を受験出来ない。 試験は、実技試験があり、合格点は100点満点の70点以上取らなければ、進級、卒業は出来ない。 不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。 総合評価は、実技試験の点数で評価する。

トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業 ○	
科目名	新機構 I	分類	必修 ・ 選択必修 ・ 選択
履修時期	3年3学期(1級専攻科1年3学期)	時限数	24 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 8 時限 実習: 16 時限 1時限は、90分
授業内容	コモンレール、D4、CNGの構造・作用を修得する		
修得目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コモンレールの構造・作用を理解する</li> <li>・オバシメータの取り扱いが出来る</li> <li>・D4の構造・作用を理解する</li> <li>・CNGの構造・作用を理解する</li> <li>・外部診断器を用いて、コモンレール、D4システムの制御内容を判断できる</li> </ul>		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	CNGとは1	CNG概要・機能・点検、ガソリン車との違い1	31		
2	CNGとは2	CNG概要・機能・点検、ガソリン車との違い2	32		
3	CNGとは3	CNG概要・機能・点検、ガソリン車との違い3	33		
4	CNGとは4	CNG概要・機能・点検、ガソリン車との違い4	34		
5	筒内噴射について1	筒内噴射の構造・機能について	35		
6	筒内噴射について2	成層燃焼と均質燃焼	36		
7	筒内噴射研究1	筒内噴射エンジン分解・組付け1	37		
8	筒内噴射研究2	筒内噴射エンジン分解・組付け2	38		
9	筒内噴射研究3	筒内噴射エンジン分解・組付け3	39		
10	筒内噴射研究4	筒内噴射エンジン分解・組付け4	40		
11	筒内噴射研究5	筒内噴射エンジン分解・組付け5	41		
12	筒内噴射研究6	筒内噴射エンジン分解・組付け6	42		
13	筒内噴射研究7	エンジンデータ確認1	43		
14	筒内噴射研究8	エンジンデータ確認2	44		
15	コモンレール1	コモンレールの概要、機能、点検	45		
16	コモンレール2	センサ、アクチュエータなどの波形確認1	46		
17	コモンレール3	センサ、アクチュエータなどの波形確認2	47		
18	コモンレール4	センサ、アクチュエータなどの波形確認3	48		
19	コモンレール5	センサ、アクチュエータなどの波形確認4	49		
20	コモンレール6	センサ、アクチュエータなどの波形確認5	50		
21	コモンレール7	センサ、アクチュエータなどの波形確認6	51		
22	まとめ1	まとめ、オバシメータ取り扱い1	52		
23	まとめ2	まとめ、オバシメータ取り扱い2	53		
24	学科試験	学科試験	54		
25			55		
26			56		
27			57		
28			58		
29			59		
30			60		

授業外学習	整備科時のレポートを見直し、ガソリンエンジン、ディーゼルエンジンの構造作動を確認しておく。60分 4時限分の授業レポートをまとめる為に、1~2時間程度の時間が掛かり、これが一日の復習となる
教科書	自動車新技術(日本自動車整備振興会連合会)
教材	1AZ分組用エンジン、1KD、2KDベンチエンジン、D4搭載車両、オバシメータ、外部診断器
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 授業レポートを提出しなければ、試験を受験出来ない。 試験は、学科試験があり、合格点は100点満点の70点以上取らなければ、進級、卒業は出来ない。 不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。 総合評価は、学科試験の点数で評価する。

トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業 ○	
科目名	新機構Ⅱ	分類	必修 ・ 選択必修 ・ 選択
履修時期	3年3学期(1級専攻科1年3学期)	時限数	24 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 3 時限 実習: 21 時限 1時限は、90分
授業内容	エアバッグ、搭載新技術の構造・作用を理解する。		
修得目標	エアバッグ、プリテンショナシートベルトの構造、作用、機能、整備方法について学び、理解する事が出来るようになる。 自動車搭載新技術の構造、作用、作動について学び、理解することが出来るようになる。		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	エアバッグ・シートベルト1	概要、構造、機能1	31		
2	エアバッグ・シートベルト2	概要、構造、機能2	32		
3	エアバッグ・シートベルト3	整備上の注意など	33		
4	エアバッグ・シートベルト4	エアバック破棄要領	34		
5	エアバッグ・シートベルト5	エアバック脱着1	35		
6	エアバッグ・シートベルト6	エアバック脱着2	36		
7	エアバッグ・シートベルト7	エアバック脱着3	37		
8	エアバッグ・シートベルト8	エアバック脱着4	38		
9	新車の商品知識1	TSS(PCS, LDA, AHB, レーダークルーズコントロール)1	39		
10	研究・体験1	TSS(PCS, LDA, AHB, レーダークルーズコントロール)2	40		
11	新車の商品知識2	IPA(パーキングアシスト)1	41		
12	研究・体験2	IPA(パーキングアシスト)2	42		
13	新車の商品知識3	ICS(クリアランスソナー)1	43		
14	研究・体験3	ICS(クリアランスソナー)2	44		
15	新車の商品知識4	セキュリティー(イモビ、オートアラーム)1	45		
16	研究・体験4	セキュリティー(イモビ、オートアラーム)2	46		
17	新車の商品知識5	スマートエントリー1	47		
18	研究・体験5	スマートエントリー2	48		
19	新車の商品知識6	バルハマチック1	49		
20	研究・体験6	バルハマチック2	50		
21	新車の商品知識7	AFS(アダプティブフロントライト)1	51		
22	研究・体験7	AFS(アダプティブフロントライト)2	52		
23	新車の商品知識8	その他装置	53		
24	学科試験	学科試験	54		
25			55		
26			56		
27			57		
28			58		
29			59		
30			60		

授業外学習	シヤシA基本Ⅰのレポートを確認し、エアバッグについて復習しておく 60分 4時限分の授業レポートをまとめる為に、1~2時間程度の時間が掛かり、これが一日の復習となる
教科書	自動車新技術(日本自動車整備振興会連合会)
教材	ZRR70W(ヴォクシー)、ZN6(86)、ZVW30・ZVW50(プリウス)、ZVW40(プリウスα)、GGH20W(ヴェルファイア)、ZWA10(GT200h) 外部診断機
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 授業レポートを提出しなければ、試験を受験出来ない。 試験は、学科試験があり、合格点は100点満点の70点以上取らなければ、進級、卒業は出来ない。 不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。 総合評価は、学科試験の点数で評価する。

トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業 ○	
科目名	車上整備 I ①	分類	必修 ・ 選択必修 ・ 選択
履修時期	3年3学期(1級専攻科1年3学期)	時限数	48 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 11 時限 実習: 37 時限 1時限は、90分
授業内容	定期点検、車検等の作業練習と現場の作業体験を行う		
修得目標	基本的な整備・点検(日常点検、プロケア10、1年定期点検)・検査作業を学び、実施出来るようになる。 記録簿の記入方法を学び、記入出来るようになる。		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	基本作業1	ジャッキアップダウン、リフト操作手順確認1	31	プロケア10 5	プロケア10作業5
2		ジャッキアップダウン、リフト操作手順確認2	32	プロケア10 6	プロケア10作業6
3	基本作業2	タイヤローテーション1	33	日常点検1	日常点検作業1
4		タイヤローテーション2	34	日常点検2	日常点検作業2
5	基本作業3	オイル交換1	35	日常点検3	日常点検作業3
6		オイル交換2	36	日常点検4	日常点検作業4
7	基本作業4	ラバー交換、ウオッシャー位置調整1	37	日常点検5	日常点検作業5
8		ラバー交換、ウオッシャー位置調整2	38	日常点検6	日常点検作業6
9	基本作業5	バッテリー脱着・充電1	39	1年定期点検1	1年定期点検作業1
10		バッテリー脱着・充電2	40	1年定期点検2	1年定期点検作業2
11	基本作業6	LLC交換1	41	1年定期点検3	1年定期点検作業3
12		LLC交換2	42	1年定期点検4	1年定期点検作業4
13	基本作業7	ファンベルト交換・調整1	43	1年定期点検5	1年定期点検作業5
14		ファンベルト交換・調整2	44	1年定期点検6	1年定期点検作業6
15	基本作業8	灯火装置バルブ交換1	45	1年定期点検7	1年定期点検作業7
16		灯火装置バルブ交換2	46	1年定期点検8	1年定期点検作業8
17	基本作業9	タイヤチェンジャー取り扱い1	47	1年定期点検9	1年定期点検作業9
18		タイヤチェンジャー取り扱い2	48	1年定期点検10	1年定期点検作業10
19	基本作業10	パンク修理1	49		
20		パンク修理2	50		
21	基本作業11	ホイールバランス調整1	51		
22		ホイールバランス調整2	52		
23	完成検査	各部完成検査1	53		
24		各部完成検査2	54		
25	記録簿について	記入要領	55		
26	分解整備とは	分解整備概要、検査	56		
27	プロケア10 1	プロケア10作業1	57		
28	プロケア10 2	プロケア10作業2	58		
29	プロケア10 3	プロケア10作業3	59		
30	プロケア10 4	プロケア10作業4	60		

授業外学習	基本的な整備作業、点検作業、記録簿の記入方法を確認しておく 60分 4時限分の授業レポートをまとめる為に、1~2時間程度の時間が掛かり、これが一日の復習となる
教科書	トヨタサービス技術テキスト 導入教育編、診断アドバイスマニュアル、教育用メンテナンスノート(トヨタ自動車株式会社)
教材	SCP90(ヴィッツ)、JZX110(マークII)、ZVW30・NHW20(プリウス)、SXE10(アルテッツァ)、NCP141(スベイド)、ACT10(オーバ)、ZN6(86)、AWS210(クラウン) タイヤチェンジャー、ホイールバランス、SQ車検台車、CO・HCテスト、オパシメータ、LLCチェンジャー、ATFチェンジャー
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 授業レポートを提出しなければ、試験を受験出来ない。 試験は、実技試験(車上整備 I ②へ記載)があり、合格点は100点満点の70点以上取らなければならない。進級、卒業は出来ない。 不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。 総合評価は、実技試験の点数で評価する。

トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業 ○	
科目名	車上整備 I ②	分類	必修 ・ 選択必修 ・ 選択
履修時期	3年3学期(1級専攻科1年3学期)	時限数	40 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 4 時限 実習: 36 時限 1時限は、90分
授業内容	定期点検、車検等の作業練習と現場の作業体験を行う。		
修得目標	販売店において実務研修を行い、現場での各種作業を体験・実施出来るようになる。 2年定期点検整備について学び、整備作業を実施出来るようになる。 2年定期点検整備後の検査について学び、検査機器の取扱いについて理解出来るようになる。		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	実務研修 I 1	販売店における実務体験1	31	2年定期点検19	2年定期点検(車検)作業16
2	実務研修 I 2	販売店における実務体験2	32	2年定期点検20	2年定期点検(車検)作業17
3	実務研修 I 3	販売店における実務体験3	33	完成検査1	検査、機器取り扱い1
4	実務研修 I 4	販売店における実務体験4	34	完成検査2	検査、機器取り扱い2
5	実務研修 I 5	販売店における実務体験5	35	完成検査3	検査、機器取り扱い3
6	実務研修 I 6	販売店における実務体験6	36	完成検査4	検査、機器取り扱い4
7	実務研修 I 7	販売店における実務体験7	37	まとめ1	まとめ1
8	実務研修 I 8	販売店における実務体験8	38	まとめ2	まとめ2
9	実務研修 I 9	販売店における実務体験9	39	実技試験1	実技試験
10	実務研修 I 10	販売店における実務体験10	40	実技試験2	実技試験
11	実務研修 I 11	販売店における実務体験11	41		
12	実務研修 I 12	販売店における実務体験12	42		
13	2年定期点検1	継続検査、保安基準	43		
14	2年定期点検2	オパシメータ取り扱い	44		
15	2年定期点検3	2年定期点検(車検)作業1	45		
16	2年定期点検4	2年定期点検(車検)作業2	46		
17	2年定期点検5	2年定期点検(車検)作業3	47		
18	2年定期点検6	2年定期点検(車検)作業4	48		
19	2年定期点検7	2年定期点検(車検)作業5	49		
20	2年定期点検8	2年定期点検(車検)作業6	50		
21	2年定期点検9	2年定期点検(車検)作業7	51		
22	2年定期点検10	2年定期点検(車検)作業8	52		
23	2年定期点検11	2年定期点検(車検)作業9	53		
24	2年定期点検12	2年定期点検(車検)作業10	54		
25	2年定期点検13	2年定期点検(車検)作業11	55		
26	2年定期点検14	2年定期点検(車検)作業12	56		
27	2年定期点検15	2年定期点検(車検)作業13	57		
28	2年定期点検16	2年定期点検(車検)作業14	58		
29	2年定期点検17	2年定期点検(車検)作業15	59		
30	2年定期点検18	2年定期点検(車検)作業16	60		

授業外学習	3年1学期のレポートで基本的な整備作業、点検作業、記録簿の記入方法を確認しておく 60分 4時限分の授業レポートをまとめる為に、1~2時間程度の時間が掛かり、これが一日の復習となる
教科書	トヨタサービス技術テキスト 導入教育編、診断アドバイスマニュアル、教育用メンテナンスノート(トヨタ自動車株式会社)
教材	SCP90(ヴィッツ)、JZX110(マークII)、ZVW30・NHW20(プリウス)、SXE10(アルテッツァ)、NCP141(スペイド)、ACT10(オーバ)、ZN6(86)、AWS210(クラウン) タイヤチェンジャー、ホイールバランス、SQ車検台車、CO・HCテスト、オパシメータ、LLCチェンジャー、ATFチェンジャー
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 授業レポートを提出しなければ、試験を受験出来ない。 試験は、実技試験があり、合格点は100点満点の70点以上取らなければ、進級、卒業は出来ない。 不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。 総合評価は、実技試験の点数で評価する。



トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業 ○	
科目名	故障診断①	分類	必修・選択必修・選択
履修時期	4年1学期(1級専攻科2年1学期)	時限数	30 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 時限 実習: 30 時限 1時限は、90分
授業内容	実車を使用して、主に機械的故障の診断法を修得する。		
修得目標	機械的な不具合のあるエンジンの故障診断が出来るようになる エンジン各部の測定が正しく出来るようになる		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	故障診断の手順1	故障診断の基本手順の確認1	31		
2	故障診断の手順2	故障診断の基本手順の確認2	32		
3	故障診断の手順3	故障診断の基本手順の確認3	33		
4	故障診断の手順4	故障診断の基本手順の確認4	34		
5	故障診断作業1	①エンジン始動困難1	35		
6	故障診断作業2	①エンジン始動困難2	36		
7	故障診断作業3	①エンジン始動困難3	37		
8	故障診断作業4	①エンジン始動困難4	38		
9	故障診断作業5	①エンジン始動困難5	39		
10	故障診断作業6	①エンジン始動困難6	40		
11	故障診断作業7	①エンジン始動困難7	41		
12	故障診断作業8	①エンジン始動困難8	42		
13	故障診断作業9	②アイドル不調・エンスト1	43		
14	故障診断作業10	②アイドル不調・エンスト2	44		
15	故障診断作業11	②アイドル不調・エンスト3	45		
16	故障診断作業12	②アイドル不調・エンスト4	46		
17	故障診断作業13	②アイドル不調・エンスト5	47		
18	故障診断作業14	②アイドル不調・エンスト6	48		
19	故障診断作業15	②アイドル不調・エンスト7	49		
20	故障診断作業16	②アイドル不調・エンスト8	50		
21	故障診断作業17	③出力不足・燃費大1	51		
22	故障診断作業18	③出力不足・燃費大2	52		
23	故障診断作業19	③出力不足・燃費大3	53		
24	故障診断作業20	③出力不足・燃費大4	54		
25	故障診断作業21	③出力不足・燃費大5	55		
26	故障診断作業22	③出力不足・燃費大6	56		
27	故障診断作業23	③出力不足・燃費大7	57		
28	故障診断作業24	③出力不足・燃費大8	58		
29	故障診断作業25	④エンジン異音1	59		
30	故障診断作業26	④エンジン異音2	60		

授業外学習	3年次のレポートを確認。トヨタサービス 技術テキスト 2STEP「ガソリンエンジン」の項目の復習 60分 4時限分の授業レポートをまとめる為に、1～2時間程度の時間が掛かり、これが一日の復習となる
教科書	トヨタサービス 技術テキスト 4STEP
教材	1G-FE エンジン 6基、実習車 3台
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 授業レポートを提出しなければならない。試験を受験出来ない。 試験は、実技試験(故障診断②へ記載)があり、合格点は100点満点の70点以上取らなければならない。進級、卒業は出来ない。 不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。 総合評価は、実技試験の点数で評価する。

トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業 ○	
科目名	故障診断②	分類	必修・選択必修・選択
履修時期	4年1学期(1級専攻科2年1学期)	時限数	30 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 時限 実習: 30 時限 1時限は、90分
授業内容	実車を使用して、主に機械的故障の診断法を修得する。		
修得目標	機械的な不具合のあるエンジンの故障診断が出来るようになる エンジン各部の測定が正しく出来るようになる		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	故障診断作業1	④エンジン異音1	31		
2	故障診断作業2	④エンジン異音2	32		
3	故障診断作業3	④エンジン異音3	33		
4	故障診断作業4	④エンジン異音4	34		
5	故障診断作業5	④エンジン異音5	35		
6	故障診断作業6	④エンジン異音6	36		
7	故障診断作業7	⑤オイル消費大1	37		
8	故障診断作業8	⑤オイル消費大2	38		
9	故障診断作業9	⑤オイル消費大3	39		
10	故障診断作業10	⑤オイル消費大4	40		
11	故障診断作業11	⑤オイル消費大5	41		
12	故障診断作業12	⑤オイル消費大6	42		
13	故障診断作業13	⑤オイル消費大7	43		
14	故障診断作業14	⑤オイル消費大8	44		
15	測定作業1	シリンダー内径測定1	45		
16	測定作業2	シリンダー内径測定2	46		
17	測定作業3	シリンダー内径測定3	47		
18	測定作業4	シリンダー内径測定4	48		
19	測定作業5	ピストン・ピストンリング各部測定1	49		
20	測定作業6	ピストン・ピストンリング各部測定2	50		
21	測定作業7	ピストン・ピストンリング各部測定3	51		
22	測定作業8	ピストン・ピストンリング各部測定4	52		
23	まとめ1	各故障診断・修理作業についてまとめ1	53		
24	まとめ2	各故障診断・修理作業についてまとめ2	54		
25	まとめ3	各故障診断・修理作業についてまとめ3	55		
26	まとめ4	各故障診断・修理作業についてまとめ4	56		
27	まとめ5	各故障診断・修理作業についてまとめ5	57		
28	まとめ6	各故障診断・修理作業についてまとめ6	58		
29	実技試験1	実技試験	59		
30	実技試験2	実技試験	60		

授業外学習	3年次のレポートを確認。トヨタサービス 技術テキスト 2STEP「ガソリンエンジン」の項目の復習 60分 4時限分の授業レポートをまとめる為に、1～2時間程度の時間が掛かり、これが一日の復習となる
教科書	トヨタサービス 技術テキスト 4STEP
教材	1G-FE エンジン 6基、実習車 3台
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 授業レポートを提出しなければならない。試験を受験出来ない。 試験は、実技試験があり、合格点は100点満点の70点以上取らなければならない。進級、卒業は出来ない。 不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。 総合評価は、実技試験の点数で評価する。

トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業 ○	
科目名	車上整備Ⅱ①	分類	必修 ・ 選択必修 ・ 選択
履修時期	4年1学期(1級専攻科2年1学期)	時限数	30 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 時限 実習: 30 時限 1時限は、90分
授業内容	定期点検作業、車両からのエンジンの脱着作業を実施する。		
修得目標	定期点検作業を確実に出来るようにする 車両からのエンジン脱着作業の要領を身に付ける		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	多頻度作業1	多頻度作業1	31		
2	多頻度作業2	多頻度作業2	32		
3	多頻度作業3	多頻度作業3	33		
4	多頻度作業4	多頻度作業4	34		
5	多頻度作業5	多頻度作業5	35		
6	多頻度作業6	多頻度作業6	36		
7	多頻度作業7	多頻度作業7	37		
8	多頻度作業8	多頻度作業8	38		
9	日常点検1	日常点検1	39		
10	日常点検2	日常点検2	40		
11	日常点検3	日常点検3	41		
12	日常点検4	日常点検4	42		
13	1年定期点検1	1年定期点検1	43		
14	1年定期点検2	1年定期点検2	44		
15	1年定期点検3	1年定期点検3	45		
16	1年定期点検4	1年定期点検4	46		
17	1年定期点検5	1年定期点検5	47		
18	1年定期点検6	1年定期点検6	48		
19	1年定期点検7	1年定期点検7	49		
20	1年定期点検8	1年定期点検8	50		
21	1年定期点検9	1年定期点検9	51		
22	1年定期点検10	1年定期点検10	52		
23	1年定期点検11	1年定期点検11	53		
24	1年定期点検12	1年定期点検12	54		
25	1年定期点検13	1年定期点検13	55		
26	1年定期点検14	1年定期点検14	56		
27	1年定期点検15	1年定期点検15	57		
28	1年定期点検16	1年定期点検16	58		
29	2年定期点検1	2年定期点検1	59		
30	2年定期点検2	2年定期点検2	60		

授業外学習	3年次のレポートを確認。トヨタサービス 技術テキスト 導入教育編 定期点検整備を確認しておく 60分 4時限分の授業レポートをまとめる為に、1～2時間程度の時間が掛かり、これが一日の復習となる
教科書	トヨタサービス 技術テキスト 導入教育編
教材	教材車 12台
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 授業レポートを提出しなければならない。試験を受験出来ない。 試験は、実技試験(車上整備Ⅱ②へ記載)があり、合格点は100点満点の70点以上取らなければ、進級、卒業は出来ない。 不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。 総合評価は、実技試験の点数で評価する。

トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業 ○	
科目名	車上整備Ⅱ②	分類	必修・選択必修・選択
履修時期	4年1学期(1級専攻科2年1学期)	時限数	30 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 時限 実習: 30 時限 1時限は、90分
授業内容	定期点検作業、車両からのエンジンの脱着作業を実施する。		
修得目標	定期点検作業を確実に出来るようにする 車両からのエンジン脱着作業の要領を身に付ける		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	2年定期点検3	2年定期点検3	31		
2	2年定期点検4	2年定期点検4	32		
3	2年定期点検5	2年定期点検5	33		
4	2年定期点検6	2年定期点検6	34		
5	2年定期点検7	2年定期点検7	35		
6	2年定期点検8	2年定期点検8	36		
7	2年定期点検9	検査ライン取り扱い1	37		
8	2年定期点検10	検査ライン取り扱い2	38		
9	2年定期点検11	検査ライン取り扱い3	39		
10	2年定期点検12	検査ライン取り扱い4	40		
11	車両各部脱着作業1	駆動装置1	41		
12	車両各部脱着作業2	駆動装置2	42		
13	車両各部脱着作業3	駆動装置3	43		
14	車両各部脱着作業4	駆動装置4	44		
15	車両各部脱着作業5	操舵装置1	45		
16	車両各部脱着作業6	操舵装置2	46		
17	車両各部脱着作業7	操舵装置3	47		
18	車両各部脱着作業8	操舵装置4	48		
19	車両各部脱着作業9	緩衝装置1	49		
20	車両各部脱着作業10	緩衝装置2	50		
21	車両各部脱着作業11	緩衝装置3	51		
22	車両各部脱着作業12	緩衝装置4	52		
23	車両各部脱着作業13	ボデー1	53		
24	車両各部脱着作業14	ボデー2	54		
25	車両各部脱着作業15	ボデー3	55		
26	車両各部脱着作業16	ボデー4	56		
27	まとめ1	点検作業まとめ1	57		
28	まとめ2	点検作業まとめ2	58		
29	実技試験1	実技試験	59		
30	実技試験2	実技試験	60		

授業外学習	3年次のレポートを確認。トヨタサービス 技術テキスト 導入教育編 定期点検整備を確認しておく 60分 4時限分の授業レポートをまとめる為に、1～2時間程度の時間が掛かり、これが一日の復習となる
教科書	トヨタサービス 技術テキスト 導入教育編
教材	教材車 12台
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 授業レポートを提出しなければならない。試験を受験出来ない。 試験は、実技試験があり、合格点は100点満点の70点以上取らなければならない。進級、卒業は出来ない。 不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。 総合評価は、実技試験の点数で評価する。

トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業 ○	
科目名	電装総合診断①	分類	必修 ・ 選択必修 ・ 選択
履修時期	4年1学期(1級専攻科2年1学期)	時限数	30 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 時限 実習: 30 時限 1時限は、90分
授業内容	各電装品や通信装置の診断法を修得する。		
修得目標	灯火パネル等を使用した電気回路を読み解くことが出来る 電気回路の故障診断が確実に出来るようになる 多重通信回路(CAN、LIN等)の故障診断の基礎が理解できるようになる		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	故障診断の手順1	故障診断の基本手順の確認1	31		
2	故障診断の手順2	故障診断の基本手順の確認2	32		
3	エンジン電装品1	充電装置1	33		
4	エンジン電装品2	充電装置2	34		
5	エンジン電装品3	充電装置3	35		
6	エンジン電装品4	充電装置4	36		
7	エンジン電装品5	充電装置5	37		
8	エンジン電装品6	充電装置6	38		
9	エンジン電装品7	充電装置7	39		
10	エンジン電装品8	充電装置8	40		
11	エンジン電装品9	始動装置1	41		
12	エンジン電装品10	始動装置2	42		
13	エンジン電装品11	始動装置3	43		
14	エンジン電装品12	始動装置4	44		
15	シャシ・ボデー電装品1	LIN通信関係1	45		
16	シャシ・ボデー電装品2	LIN通信関係2	46		
17	シャシ・ボデー電装品3	LIN通信関係3	47		
18	シャシ・ボデー電装品4	LIN通信関係4	48		
19	シャシ・ボデー電装品5	LIN通信関係5	49		
20	シャシ・ボデー電装品6	LIN通信関係6	50		
21	シャシ・ボデー電装品7	LIN通信関係7	51		
22	シャシ・ボデー電装品8	LIN通信関係8	52		
23	シャシ・ボデー電装品9	ドア・パワーウィンド関係1	53		
24	シャシ・ボデー電装品10	ドア・パワーウィンド関係2	54		
25	シャシ・ボデー電装品11	ドア・パワーウィンド関係3	55		
26	シャシ・ボデー電装品12	ドア・パワーウィンド関係4	56		
27	シャシ・ボデー電装品13	灯火装置1	57		
28	シャシ・ボデー電装品14	灯火装置2	58		
29	シャシ・ボデー電装品15	灯火装置3	59		
30	シャシ・ボデー電装品16	灯火装置4	60		

授業外学習	エンジン工学Ⅱ「通信信号」レポートの確認 30分 4時限分の授業レポートをまとめる為に、1～2時間程度の時間が掛かり、これが一日の復習となる
教科書	エンジン電子制御装置(日本自動車整備振興会連合会)
教材	灯火パネル、実習車
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 授業レポートを提出しなければ、試験を受験出来ない。 試験は、実技試験(電装総合診断②へ記載)があり、合格点は100点満点の70点以上取らなければ、進級、卒業は出来ない。 不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。 総合評価は、実技試験の点数で評価する。

トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業 ○	
科目名	電装総合診断②	分類	必修 ・ 選択必修 ・ 選択
履修時期	4年1学期(1級専攻科2年1学期)	時限数	30 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 時限 実習: 30 時限 1時限は、90分
授業内容	各電装品や通信装置の診断法を修得する。		
修得目標	灯火パネル等を使用した電気回路を読み解くことが出来る 電気回路の故障診断が確実に出来るようになる 多重通信回路(CAN、LIN等)の故障診断の基礎が理解できるようになる		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	シャシ・ボデー診断作業1	灯火装置1	31		
2	シャシ・ボデー診断作業2	灯火装置2	32		
3	シャシ・ボデー診断作業3	灯火装置3	33		
4	シャシ・ボデー診断作業4	灯火装置4	34		
5	シャシ・ボデー診断作業5	灯火装置5	35		
6	シャシ・ボデー診断作業6	灯火装置6	36		
7	シャシ・ボデー診断作業7	灯火装置7	37		
8	シャシ・ボデー診断作業8	灯火装置8	38		
9	シャシ・ボデー診断作業9	灯火装置9	39		
10	シャシ・ボデー診断作業10	灯火装置10	40		
11	シャシ・ボデー診断作業11	灯火装置11	41		
12	シャシ・ボデー診断作業12	灯火装置12	42		
13	CAN通信診断1	CAN通信1	43		
14	CAN通信診断2	CAN通信2	44		
15	CAN通信診断3	CAN通信3	45		
16	CAN通信診断4	CAN通信4	46		
17	CAN通信診断5	CAN通信5	47		
18	CAN通信診断6	CAN通信6	48		
19	CAN通信診断7	CAN通信7	49		
20	CAN通信診断8	CAN通信8	50		
21	CAN通信診断9	CAN通信9	51		
22	CAN通信診断10	CAN通信10	52		
23	CAN通信診断11	CAN通信11	53		
24	CAN通信診断12	CAN通信12	54		
25	CAN通信診断13	CAN通信13	55		
26	CAN通信診断14	CAN通信14	56		
27	CAN通信診断15	CAN通信15	57		
28	CAN通信診断16	CAN通信16	58		
29	実技試験1	実技試験	59		
30	実技試験2	実技試験	60		

授業外学習	エンジン工学Ⅱ「通信信号」レポートの確認 30分 4時限分の授業レポートをまとめる為に、1～2時間程度の時間が掛かり、これが一日の復習となる
教科書	エンジン電子制御装置(日本自動車整備振興会連合会)
教材	灯火パネル、実習車
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 授業レポートを提出しなければ、試験を受験出来ない。 試験は、実技試験があり、合格点は100点満点の70点以上取らなければ、進級、卒業は出来ない。 不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。 総合評価は、実技試験の点数で評価する。

トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業	
科目名	経済・経営学概論	分類	必修・選択必修・選択
履修時期	4年1学期(1級専攻科2年1学期)	時限数	20 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 20 時限 実習: 時限 1時限は、90分
授業内容	経営・経済概論、インフレとデフレ、戦略と戦術、経営・経済とお金について学ぶ		
修得目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営・経済について概論がわかる</li> <li>・インフレとデフレがわかる</li> <li>・経営戦略と戦術がわかる</li> <li>・円相場と株式相場、企業の決算書の意味と情報がわかる</li> </ul>		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	経済1	経済学概論1	31		
2	経済2	経済学概論2	32		
3	経済3	経済とは	33		
4	経営1	経営の働きについて	34		
5	経済4	経済のフローとストック	35		
6	経営2	会社の目的	36		
7	経済5	インフレとデフレ	37		
8	経営3	経営戦略と戦術	38		
9	経済6	デフレと日本経済	39		
10	経営4	商品のライフサイクルとマーケティング戦略	40		
11	経済7	市場経済と産業構造	41		
12	経営5	組織と人、人事評価	42		
13	経済8	政府と経済の仕組み	43		
14	経営6	人材(財)育成制度	44		
15	経営7	人事評価制度と人事考課	45		
16	経営8	企業の国際化	46		
17	経済9	お金と経済	47		
18	経営9	経営とお金	48		
19	経営10	企業の健全経営	49		
20	まとめ	まとめ	50		
21			51		
22			52		
23			53		
24			54		
25			55		
26			56		
27			57		
28			58		
29			59		
30			60		

授業外学習	経営のしくみ 最新版(入門の入門、世界一やさしい経済の教科書1年生を確認しておく 30分
教科書	経営のしくみ 最新版(入門の入門/日本実業出版社、世界一やさしい経済の教科書1年生/ソーテック社
教材	なし
成績評価の方法と基準	<p>授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。</p> <p>試験は、学科試験があり、合格点は100点満点の70点以上取らなければならない。進級、卒業は出来ない。</p> <p>不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。</p> <p>総合評価は、学科試験の点数で評価する。</p>

トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業	
科目名	商法・簿記会計学	分類	必修・選択必修・選択
履修時期	4年1学期(1級専攻科2年1学期)	時限数	15 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 15 時限 実習: 時限 1時限は、90分
授業内容	簿記会計の基礎、株式会社、資産、消費税、税法を学ぶ		
修得目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簿記会計の基礎がわかる</li> <li>・株式会社についてわかる</li> <li>・棚卸資産、固定資産がわかる</li> <li>・手形・小切手についてわかる</li> <li>・青色申告、税金についてわかる</li> </ul>		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	簿記会計の基礎1	簿記の目的、資産、負債、資本、費用、収益とは	31		
2	簿記会計の基礎2	貸借対照表と損益計算書の意義と役割	32		
3	簿記会計の基礎3	2通りの利益と計算方法（財産法と損益法）	33		
4	簿記会計の基礎4	仕訳（現金取引を中心）	34		
5	簿記会計の基礎5	仕訳（掛取引など）	35		
6	保証人、時効	連帯保証人は怖い、飲み屋のツケの時効は、債務の株式化	36		
7	簿記会計の基礎6	転記、試算表、値引、返品	37		
8	株式会社1	設立、定款、実印、印鑑、捨て印	38		
9	財務諸表	トヨタ、日産、三菱の財務諸表の比較	39		
10	株式会社2	株主総会、取締役会、書類の保存期間	40		
11	棚卸資産	払出価格の計算方法によって利益は異なる	41		
12	固定資産	減価償却、生物にも耐用年数はある	42		
13	手形・小切手	約束手形の意義と役割、手形の裏書、割引、収入印紙	43		
14	消費税、預り金	税抜き処理と税込み処理、源泉徴収税額、社会保険料の納付	44		
15	税法	青色申告、税金、有給休暇と時期変更権	45		
16			46		
17			47		
18			48		
19			49		
20			50		
21			51		
22			52		
23			53		
24			54		
25			55		
26			56		
27			57		
28			58		
29			59		
30			60		

授業外学習	講師作成資料を確認する 30分
教科書	講師作成資料
教材	なし
成績評価の方法と基準	<p>授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。</p> <p>試験は、学科試験があり、合格点は100点満点の70点以上取らなければならない。不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。</p> <p>総合評価は、学科試験の点数で評価する。</p>



トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業	
科目名	自動車運動工学	分類	必修・選択必修・選択
履修時期	4年1学期(1級専攻科2年1学期)	時限数	10 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 10 時限 実習: 時限 1時限は、90分
授業内容	自動車の走行抵抗、走行・制動性能、振動、旋回について学ぶ		
修得目標	自動車の走行抵抗がわかる 自動車の走行・制動性能がわかる 自動車の振動の種類、旋回についてわかる		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	自動車走行抵抗1	ころがり抵抗、空気抵抗について	31		
2	自動車走行抵抗2	加速抵抗、勾配抵抗について	32		
3	自動車走行性能	走行性能について	33		
4	自動車の振動	ヨーイング、ピッチング、バウンスングについて	34		
5	自動車の旋回1	旋回特性について	35		
6	自動車の旋回2	コーナリングフォースについて	36		
7	自動車の旋回3	遠心力とコーナリングフォースについて	37		
8	自動車の制動性能1	反応時間、速度と制動距離について	38		
9	自動車の制動性能2	路面及びタイヤと制動距離について	39		
10	まとめ	試 験	40		
11			41		
12			42		
13			43		
14			44		
15			45		
16			46		
17			47		
18			48		
19			49		
20			50		
21			51		
22			52		
23			53		
24			54		
25			55		
26			56		
27			57		
28			58		
29			59		
30			60		

授業外学習	わかる自動車工学を確認しておく 30分
教科書	わかる自動車工学
教材	なし
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 試験は、学科試験があり、合格点は100点満点の70点以上取らなければならない。進級、卒業は出来ない。 不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。 総合評価は、学科試験の点数で評価する。

トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業 ○	
科目名	応用整備 I	分類	必修 ・ 選択必修 ・ 選択
履修時期	4年2学期(1級専攻科2年2学期)	時限数	36 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 時限 実習: 36 時限 1時限は、90分
授業内容	トヨタサービス技術検定2級のエンジン計測、エンジン故障診断を理解する。		
修得目標	エンジン各部の測定が確実に出来る ガソリンエンジンの故障診断が確実に出来る		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	技術教育3ステップ1	トヨタ技術検定 § 1	31	技術教育3ステップ31	TCCS関係の故障診断13
2	技術教育3ステップ2	エンジン各部の計測	32	技術教育3ステップ32	TCCS関係の故障診断14
3	技術教育3ステップ3	各部の測定1	33	まとめ1	まとめ1
4	技術教育3ステップ4	各部の測定2	34	まとめ2	まとめ2
5	技術教育3ステップ5	各部の測定3	35	実技試験1	実技試験
6	技術教育3ステップ6	各部の測定4	36	実技試験2	実技試験
7	技術教育3ステップ7	各部の測定5	37		
8	技術教育3ステップ8	各部の測定6	38		
9	技術教育3ステップ9	各部の測定7	39		
10	技術教育3ステップ10	各部の測定8	40		
11	技術教育3ステップ11	各部の測定9	41		
12	技術教育3ステップ12	各部の測定10	42		
13	技術教育3ステップ13	各部の測定11	43		
14	技術教育3ステップ14	各部の測定12	44		
15	技術教育3ステップ15	各部の測定13	45		
16	技術教育3ステップ16	各部の測定14	46		
17	技術教育3ステップ17	トヨタ技術検定 § 2	47		
18	技術教育3ステップ18	ガソリンエンジンの故障診断	48		
19	技術教育3ステップ19	TCCS関係の故障診断1	49		
20	技術教育3ステップ20	TCCS関係の故障診断2	50		
21	技術教育3ステップ21	TCCS関係の故障診断3	51		
22	技術教育3ステップ22	TCCS関係の故障診断4	52		
23	技術教育3ステップ23	TCCS関係の故障診断5	53		
24	技術教育3ステップ24	TCCS関係の故障診断6	54		
25	技術教育3ステップ25	TCCS関係の故障診断7	55		
26	技術教育3ステップ26	TCCS関係の故障診断8	56		
27	技術教育3ステップ27	TCCS関係の故障診断9	57		
28	技術教育3ステップ28	TCCS関係の故障診断10	58		
29	技術教育3ステップ29	TCCS関係の故障診断11	59		
30	技術教育3ステップ30	TCCS関係の故障診断12	60		

授業外学習	3年次のレポート確認。トヨタサービス 技術テキスト 3STEP 「ガソリンエンジン」の確認 60分 4時限分の授業レポートをまとめる為に、1～2時間程度の時間が掛かり、これが一日の復習となる
教科書	トヨタサービス 技術テキスト 3STEP
教材	1G-FEベンチエンジン、1NR-FEベンチエンジン、外部診断器、テスター、シリンダゲージ
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 授業レポートを提出しなければ、試験を受験出来ない。 試験は、実技試験があり、合格点は100点満点の70点以上取らなければ、進級、卒業は出来ない。 不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。 総合評価は、実技試験の点数で評価する。

トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業 ○	
科目名	応用整備Ⅱ	分類	必修・選択必修・選択
履修時期	4年2学期(1級専攻科2年2学期)	時限数	36 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 時限 実習: 36 時限 1時限は、90分
授業内容	トヨタサービス技術検定2級の定期点検作業を修得する。		
修得目標	定期点検作業を確実に実施できる		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	技術教育3ステップ1	トヨタ技術検定 § 4	31	技術教育3ステップ31	自動車の各装置の点検・修理要領13
2	技術教育3ステップ2	日常点検・1年定期点検	32	技術教育3ステップ32	自動車の各装置の点検・修理要領14
3	技術教育3ステップ3	各点検作業、及び点検結果に基づいたお客様へのアドバイス1	33	まとめ1	まとめ1
4	技術教育3ステップ4	各点検作業、及び点検結果に基づいたお客様へのアドバイス2	34	まとめ2	まとめ2
5	技術教育3ステップ5	各点検作業、及び点検結果に基づいたお客様へのアドバイス3	35	実技試験1	実技試験
6	技術教育3ステップ6	各点検作業、及び点検結果に基づいたお客様へのアドバイス4	36	実技試験2	実技試験
7	技術教育3ステップ7	各点検作業、及び点検結果に基づいたお客様へのアドバイス5	37		
8	技術教育3ステップ8	各点検作業、及び点検結果に基づいたお客様へのアドバイス6	38		
9	技術教育3ステップ9	各点検作業、及び点検結果に基づいたお客様へのアドバイス7	39		
10	技術教育3ステップ10	各点検作業、及び点検結果に基づいたお客様へのアドバイス8	40		
11	技術教育3ステップ11	各点検作業、及び点検結果に基づいたお客様へのアドバイス9	41		
12	技術教育3ステップ12	各点検作業、及び点検結果に基づいたお客様へのアドバイス10	42		
13	技術教育3ステップ13	各点検作業、及び点検結果に基づいたお客様へのアドバイス11	43		
14	技術教育3ステップ14	各点検作業、及び点検結果に基づいたお客様へのアドバイス12	44		
15	技術教育3ステップ15	各点検作業、及び点検結果に基づいたお客様へのアドバイス13	45		
16	技術教育3ステップ16	各点検作業、及び点検結果に基づいたお客様へのアドバイス14	46		
17	技術教育3ステップ17	トヨタ技術検定 § 5	47		
18	技術教育3ステップ18	自動車の各装置の構造・作動確認	48		
19	技術教育3ステップ19	自動車の各装置の点検・修理要領1	49		
20	技術教育3ステップ20	自動車の各装置の点検・修理要領2	50		
21	技術教育3ステップ21	自動車の各装置の点検・修理要領3	51		
22	技術教育3ステップ22	自動車の各装置の点検・修理要領4	52		
23	技術教育3ステップ23	自動車の各装置の点検・修理要領5	53		
24	技術教育3ステップ24	自動車の各装置の点検・修理要領6	54		
25	技術教育3ステップ25	自動車の各装置の点検・修理要領7	55		
26	技術教育3ステップ26	自動車の各装置の点検・修理要領8	56		
27	技術教育3ステップ27	自動車の各装置の点検・修理要領9	57		
28	技術教育3ステップ28	自動車の各装置の点検・修理要領10	58		
29	技術教育3ステップ29	自動車の各装置の点検・修理要領11	59		
30	技術教育3ステップ30	自動車の各装置の点検・修理要領12	60		

授業外学習	3年次のレポート確認。トヨタサービス 技術テキスト 導入教育編「定期点検整備」60分 4時限分の授業レポートをまとめる為に、1～2時間程度の時間が掛かり、これが一日の復習となる
教科書	トヨタサービス 技術テキスト 3STEP、導入教育編
教材	実習車両
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 授業レポートを提出しなければならない。試験を受験出来ない。 試験は、実技試験があり、合格点は100点満点の70点以上取らなければならない。進級、卒業は出来ない。 不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。 総合評価は、実技試験の点数で評価する。

トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業 ○	
科目名	応用整備Ⅲ	分類	必修・選択必修・選択
履修時期	4年2学期(1級専攻科2年2学期)	時限数	36 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 時限 実習: 36 時限 1時限は、90分
授業内容	トヨタサービス技術検定2級の灯火装置の故障診断、HVのECUデータ確認を実施する。		
修得目標	灯火パネルでの故障診断が確実に出来る HVのECUデータから車両状態を判断することが出来る 充電装置の部品の役割を判断することが出来る		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	技術教育3ステップ1	トヨタ技術検定 §3	31	技術教育3ステップ31	充電装置の点検13
2	技術教育3ステップ2	灯火装置の故障診断	32	技術教育3ステップ32	充電装置の点検14
3	技術教育3ステップ3	灯火パネルを使用した各部断線、短絡の故障診断1	33	まとめ1	まとめ1
4	技術教育3ステップ4	灯火パネルを使用した各部断線、短絡の故障診断2	34	まとめ2	まとめ2
5	技術教育3ステップ5	灯火パネルを使用した各部断線、短絡の故障診断3	35	実技試験1	実技試験
6	技術教育3ステップ6	灯火パネルを使用した各部断線、短絡の故障診断4	36	実技試験2	実技試験
7	技術教育3ステップ7	灯火パネルを使用した各部断線、短絡の故障診断5	37		
8	技術教育3ステップ8	灯火パネルを使用した各部断線、短絡の故障診断6	38		
9	技術教育3ステップ9	灯火パネルを使用した各部断線、短絡の故障診断7	39		
10	技術教育3ステップ10	灯火パネルを使用した各部断線、短絡の故障診断8	40		
11	技術教育3ステップ11	灯火パネルを使用した各部断線、短絡の故障診断9	41		
12	技術教育3ステップ12	灯火パネルを使用した各部断線、短絡の故障診断10	42		
13	技術教育3ステップ13	灯火パネルを使用した各部断線、短絡の故障診断11	43		
14	技術教育3ステップ14	灯火パネルを使用した各部断線、短絡の故障診断12	44		
15	技術教育3ステップ15	灯火パネルを使用した各部断線、短絡の故障診断13	45		
16	技術教育3ステップ16	灯火パネルを使用した各部断線、短絡の故障診断14	46		
17	技術教育3ステップ17	トヨタ技術検定 §6	47		
18	技術教育3ステップ18	ハイブリッド車のECUデータ点検	48		
19	技術教育3ステップ19	充電装置の点検1	49		
20	技術教育3ステップ20	充電装置の点検2	50		
21	技術教育3ステップ21	充電装置の点検3	51		
22	技術教育3ステップ22	充電装置の点検4	52		
23	技術教育3ステップ23	充電装置の点検5	53		
24	技術教育3ステップ24	充電装置の点検6	54		
25	技術教育3ステップ25	充電装置の点検7	55		
26	技術教育3ステップ26	充電装置の点検8	56		
27	技術教育3ステップ27	充電装置の点検9	57		
28	技術教育3ステップ28	充電装置の点検10	58		
29	技術教育3ステップ29	充電装置の点検11	59		
30	技術教育3ステップ30	充電装置の点検12	60		

授業外学習	3年次のレポート確認。「電装総合診断」レポートの確認 30分 4時限分の授業レポートをまとめる為に、1～2時間程度の時間が掛かり、これが一日の復習となる
教科書	トヨタサービス 技術テキスト 3STEP
教材	灯火パネル、ハイブリッド車両、充電装置部品
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 授業レポートを提出しなければならない。試験を受験出来ない。 試験は、実技試験があり、合格点は100点満点の70点以上取らなければならない。進級、卒業は出来ない。 不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。 総合評価は、実技試験の点数で評価する。

トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業	
科目名	実務研修Ⅱ	分類	必修・選択必修・選択
履修時期	4年2学期(1級専攻科2年2学期)	時限数	112 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 時限 実習: 112 時限 1時限は、90分 (28日×4時限=112時限)
授業内容	販売店の作業や接客を体験し、実践的な能力を高める。		
修得目標	定期点検作業が確実に出来る 車検整備作業の補佐が出来る 一般整備の補佐が出来る 故障診断・修理作業の補佐が出来る 接客の基礎が出来る		

授業計画

日数	項目	内 容	日数	項目	内 容
1	自動車の点検整備1	定期点検整備作業、又は補佐1	31		
2	自動車の点検整備2	定期点検整備作業、又は補佐2	32		
3	自動車の点検整備3	定期点検整備作業、又は補佐3	33		
4	自動車の点検整備4	定期点検整備作業、又は補佐4	34		
5	自動車の点検整備5	定期点検整備作業、又は補佐5	35		
6	自動車の点検整備6	定期点検整備作業、又は補佐6	36		
7	自動車の点検整備7	車検整備作業、又は補佐1	37		
8	自動車の点検整備8	車検整備作業、又は補佐2	38		
9	自動車の点検整備9	車検整備作業、又は補佐3	39		
10	自動車の点検整備10	車検整備作業、又は補佐4	40		
11	自動車の点検整備11	車検整備作業、又は補佐5	41		
12	自動車の点検整備12	車検整備作業、又は補佐6	42		
13	自動車の点検整備13	車検整備作業、又は補佐7	43		
14	自動車の点検整備14	車検整備作業、又は補佐8	44		
15	自動車の点検整備15	車検整備作業、又は補佐9	45		
16	自動車の点検整備16	車検整備作業、又は補佐10	46		
17	自動車の点検整備17	一般整備作業、又は補佐1	47		
18	自動車の点検整備18	一般整備作業、又は補佐2	48		
19	自動車の点検整備19	一般整備作業、又は補佐3	49		
20	自動車の点検整備20	一般整備作業、又は補佐4	50		
21	故障診断作業1	故障診断・修理作業、又は補佐1	51		
22	故障診断作業2	故障診断・修理作業、又は補佐2	52		
23	故障診断作業3	故障診断・修理作業、又は補佐3	53		
24	故障診断作業4	故障診断・修理作業、又は補佐4	54		
25	総合診断1	店舗における接客(受付～引渡し)対応、又は補佐1	55		
26	総合診断2	” 環境保全、安全管理	56		
27	総合診断3	店舗における接客(受付～引渡し)対応、又は補佐2	57		
28	総合診断4	店舗における接客(受付～引渡し)対応、又は補佐3	58		
29			59		
30			60		

授業外学習	「実務実習」導入実施 90分 4時限分の授業レポートをまとめる為に、30分～1時間程度の時間が掛かり、これが一日の復習となる
教科書	なし
教材	なし
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 授業レポートを提出しなければ、試験を受験出来ない。 試験は、実技試験があり、合格点以上の得点に達しなければ、卒業は出来ない。 不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。 総合評価は、実技試験点数が評価となる。

トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業	
科目名	自動車産業研究Ⅱ	分類	必修 ・ 選択必修 ・ 選択
履修時期	4年2学期(1級専攻科2年2学期)	時限数	7 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 7 時限 実習: 時限 1時限は、90分
授業内容	自動車産業の変遷をたどり、自動車業界におけるサービスについて考える。		
修得目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車産業の変遷を知る。</li> <li>・トヨタの「販売」や「サービス」のあり方を学ぶ。</li> </ul>		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	マーケティング活動	マーケティングとは/企業におけるマーケティング活動	31		
2	LEXUSブランド	LEXUSブランドについて/LEXUSサービスについて	32		
3	営業サービス活動1	サービス本部活動概要/アフターサービス活動販売促進活動	33		
4	営業サービス活動2	営業基本活動概要/企業スタッフの役割と営業活動の実態	34		
5	モビリティサービス現状1	自動車産業展望概要	35		
6	モビリティサービス現状2	自動車ビジネスの将来と展望	36		
7	販売店のCS・CR	CS改善活動の実態/CS・CR活動の重要性と実態	37		
8			38		
9			39		
10			40		
11			41		
12			42		
13			43		
14			44		
15			45		
16			46		
17			47		
18			48		
19			49		
20			50		
21			51		
22			52		
23			53		
24			54		
25			55		
26			56		
27			57		
28			58		
29			59		
30			60		

授業外学習	担当作成資料を確認する 30分 4時限分の授業レポートをまとめる為に、1～2時間程度の時間が掛かり、これが一日の復習となる
教科書	担当作成資料
教材	なし
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 授業レポートを試験とし、合格点は100点満点の70点以上取らなければ、進級、卒業は出来ない。 不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。 総合評価は、レポートの点数が評価となる。

トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業 ○	
科目名	エスティメーション	分類	必修 ・ 選択必修 ・ 選択
履修時期	4年2学期(1級専攻科2年2学期)	時限数	20 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 14 時限 実習: 6 時限 1時限は、90分
授業内容	事故車の修理における板金塗装料金見積もり方法を学ぶ。		
修得目標	自動車の外板・外装部品の構造が判断できる 事故車の修理方法が判断できる 事故車の損傷診断が出来る 事故車の板金塗装料金の見積もりが出来るようになる		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	事故修理受付	事故修理受付	31		
2	見積りとは	見積りの重要性、	32		
3	鋼材の特性	鋼板の特性、修理方法の判断	33		
4	修理費用の設定	修理費用の設定、修理時間、関連作業、料金算定料	34		
5	料金算定	標準作業時間のない作業	35		
6	塗装の目的	塗装の基礎知識、塗料成分と乾燥	36		
7	塗装修理方法の判断	新車の塗装工程と塗膜構成	37		
8	塗装作業時間の算出	標準作業時間の構成、標準条件	38		
9	小ダメージ見積もり1	練習問題を使用して損傷確認、塗装見積もりについて	39		
10	小ダメージ見積もり2	ボデー修理料金表について	40		
11	見積書の作成手順	見積もり手順・見積もり方法・見積書の作成・見積もり事例	41		
12	板金塗装見積の基礎知識	ボデー修理料金の算出 事故見積もり用ワークシートについて	42		
13	小ダメージ見積もり1	フロントドア損傷部の見積り方法	43		
14	小ダメージ見積もり2	レポートとして見積り書提出	44		
15	コンピュータによる見積	エスパートについて	45		
16	事故見積もり1	大ダメージ車見積もり1	46		
17	事故見積もり2	大ダメージ車見積もり2	47		
18	事故見積もり3	大ダメージ車見積もり3	48		
19	事故見積もり4	レポートとして見積り書提出	49		
20	学科テスト	見積りトヨタ3級程度	50		
21			51		
22			52		
23			53		
24			54		
25			55		
26			56		
27			57		
28			58		
29			59		
30			60		

授業外学習	トヨタサービス 技術テキスト 1STEP「ボデー」30分
教科書	トヨタサービス エスティメーション STEP1、トヨタサービス 自動車事故対応テキスト、トヨタ標準作業時間マニュアル
教材	外板・外装部品確認用実習車両
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 試験は、学科試験があり、合格点は100点満点の70点以上取らなければならない。 不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。 総合評価は、学科試験の点数で評価する。

## トヨタ東自大シラバス

## 修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業 ○	
科目名	総合整備①	分類	必修 ・ 選択必修 ・ 選択
履修時期	4年3学期(1級専攻科2年3学期)	時限数	35 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 時限 実習: 35 時限 1時限は、90分
授業内容	エンジン、シャシ、自動車新技術、安全管理、環境保全、法令の各分野を深く理解する。		
修得目標	エンジン電子制御装置について確実に故障診断が出来る シャシ電子制御装置について確実に故障診断が出来る 振動・騒音について確実に故障診断が出来る 自動車新技術の各装置に関して確実に故障診断が出来る 安全・環境について正しく判断が出来る 法令(道路運送車両法、道路運送車両の保安基準)に則した自動車検査の判断が出来る		

## 授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	エンジン電子制御装置1	エンジンの故障診断1	31	シャシ電子制御装置23	エアコンディショナーの故障診断2
2	エンジン電子制御装置2	エンジンの故障診断2	32	シャシ電子制御装置24	エアコンディショナーの故障診断3
3	エンジン電子制御装置3	エンジンの故障診断3	33	シャシ電子制御装置25	エアコンディショナーの故障診断4
4	エンジン電子制御装置4	エンジンの故障診断4	34	シャシ電子制御装置26	エアコンディショナーの故障診断5
5	エンジン電子制御装置5	エンジンの故障診断5	35	シャシ電子制御装置27	エアコンディショナーの故障診断6
6	エンジン電子制御装置6	エンジンの故障診断6	36		
7	エンジン電子制御装置7	エンジンの故障診断7	37		
8	エンジン電子制御装置8	エンジンの故障診断8	38		
9	シャシ電子制御装置1	ABSの故障診断1	39		
10	シャシ電子制御装置2	ABSの故障診断2	40		
11	シャシ電子制御装置3	ABSの故障診断3	41		
12	シャシ電子制御装置4	ABSの故障診断4	42		
13	シャシ電子制御装置5	ABSの故障診断5	43		
14	シャシ電子制御装置6	ABSの故障診断6	44		
15	シャシ電子制御装置7	ABSの故障診断7	45		
16	シャシ電子制御装置8	ECTの故障診断1	46		
17	シャシ電子制御装置9	ECTの故障診断2	47		
18	シャシ電子制御装置10	ECTの故障診断3	48		
19	シャシ電子制御装置11	ECTの故障診断4	49		
20	シャシ電子制御装置12	ECTの故障診断5	50		
21	シャシ電子制御装置13	ECTの故障診断6	51		
22	シャシ電子制御装置14	ECTの故障診断7	52		
23	シャシ電子制御装置15	EPSの故障診断1	53		
24	シャシ電子制御装置16	EPSの故障診断2	54		
25	シャシ電子制御装置17	EPSの故障診断3	55		
26	シャシ電子制御装置18	EPSの故障診断4	56		
27	シャシ電子制御装置19	EPSの故障診断5	57		
28	シャシ電子制御装置20	EPSの故障診断6	58		
29	シャシ電子制御装置21	EPSの故障診断7	59		
30	シャシ電子制御装置22	エアコンディショナーの故障診断1	60		

授業外学習	3年次のレポートと下記教科書を見直し復習 60分 4時限分の授業レポートをまとめる為に、1～2時間程度の時間が掛かり、これが一日の復習となる
教科書	エンジン電子制御装置(日本自動車整備振興会連合会) シャシ電子制御装置(日本自動車整備振興会連合会) 自動車新技術(日本自動車整備振興会連合会) 総合診断・環境保全・安全管理(日本自動車整備振興会連合会) 法令教材(日本自動車整備振興会連合会)
教材	なし
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 授業レポートを提出しなければ、試験を受験出来ない。 試験は、実技試験(総合整備③へ記載)があり、合格点は100点満点の70点以上取らなければ、進級、卒業は出来ない。 不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。 総合評価は、実技試験の点数で評価する。



トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業 ○	
科目名	総合整備②	分類	必修・選択必修・選択
履修時期	4年3学期(1級専攻科2年3学期)	時限数	35 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 時限 実習: 35 時限 1時限は、90分
授業内容	エンジン、シャシ、自動車新技術、安全管理、環境保全、法令の各分野を深く理解する。		
修得目標	エンジン電子制御装置について確実に故障診断が出来る シャシ電子制御装置について確実に故障診断が出来る 振動・騒音について確実に故障診断が出来る 自動車新技術の各装置に関して確実に故障診断が出来る 安全・環境について正しく判断が出来る 法令(道路運送車両法、道路運送車両の保安基準)に則した自動車検査の判断が出来る		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
31	シャシ電子制御装置23	エアコンディショナーの故障診断2	61	安全管理3	安全管理3
32	振動・騒音1	振動・騒音の故障診断1	62	安全管理4	安全管理4
33	振動・騒音2	振動・騒音の故障診断2	63	安全管理5	安全管理5
34	振動・騒音3	振動・騒音の故障診断3	64	安全管理6	安全管理6
35	振動・騒音4	振動・騒音の故障診断4	65	環境保全	環境保全
36	振動・騒音5	振動・騒音の故障診断5	66		
37	振動・騒音6	振動・騒音の故障診断6	67		
38	振動・騒音7	振動・騒音の故障診断7	68		
39	振動・騒音8	振動・騒音の故障診断8	69		
40	振動・騒音9	振動・騒音の故障診断9	70		
41	振動・騒音10	振動・騒音の故障診断10	71		
42	振動・騒音11	振動・騒音の故障診断11	72		
43	振動・騒音12	振動・騒音の故障診断12	73		
44	自動車新技術1	CVTの研究と故障診断1	74		
45	自動車新技術2	CVTの研究と故障診断2	75		
46	自動車新技術3	CVTの研究と故障診断3	76		
47	自動車新技術4	ハイブリッドの研究と故障診断1	77		
48	自動車新技術5	ハイブリッドの研究と故障診断2	78		
49	自動車新技術6	ハイブリッドの研究と故障診断3	79		
50	自動車新技術7	ハイブリッドの研究と故障診断4	80		
51	自動車新技術8	ハイブリッドの研究と故障診断5	81		
52	自動車新技術9	ハイブリッドの研究と故障診断6	82		
53	自動車新技術10	ハイブリッドの研究と故障診断7	83		
54	自動車新技術11	ハイブリッドの研究と故障診断8	84		
55	自動車新技術12	CNG・D4・コモンレール式ジーゼルの研究と故障診断1	85		
56	自動車新技術13	CNG・D4・コモンレール式ジーゼルの研究と故障診断2	86		
57	自動車新技術14	CNG・D4・コモンレール式ジーゼルの研究と故障診断3	87		
58	自動車新技術15	CNG・D4・コモンレール式ジーゼルの研究と故障診断4	88		
59	安全管理1	安全管理1	89		
60	安全管理2	安全管理2	90		

授業外学習	3年次のレポートと下記教科書を見直し復習 60分 4時限分の授業レポートをまとめる為に、1～2時間程度の時間が掛かり、これが一日の復習となる
教科書	エンジン電子制御装置(日本自動車整備振興会連合会) シャシ電子制御装置(日本自動車整備振興会連合会) 自動車新技術(日本自動車整備振興会連合会) 総合診断・環境保全・安全管理(日本自動車整備振興会連合会) 法令教材(日本自動車整備振興会連合会)
教材	なし
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 授業レポートを提出しなければ、試験を受験出来ない。 試験は、実技試験(総合整備③へ記載)があり、合格点は100点満点の70点上取らなければならない。進級、卒業は出来ない。 不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。 総合評価は、実技試験の点数で評価する。

## トヨタ東自大シラバス

## 修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業 ○	
科目名	総合整備③	分類	必修 ・ 選択必修 ・ 選択
履修時期	4年3学期(1級専攻科2年3学期)	時限数	17 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 時限 実習: 17 時限 1時限は、90分
授業内容	エンジン、シャシ、自動車新技術、安全管理、環境保全、法令の各分野を深く理解する。		
修得目標	エンジン電子制御装置について確実に故障診断が出来る シャシ電子制御装置について確実に故障診断が出来る 振動・騒音について確実に故障診断が出来る 自動車新技術の各装置に関して確実に故障診断が出来る 安全・環境について正しく判断が出来る 法令(道路運送車両法、道路運送車両の保安基準)に則した自動車検査の判断が出来る		

## 授業計画

時限	項目	内容	時限	項目	内容
66	環境保全2	環境保全2	96		
67	環境保全3	環境保全3	97		
68	環境保全4	環境保全4	98		
69	環境保全5	環境保全5	99		
70	環境保全6	環境保全6	100		
71	法令1	法令1	101		
72	法令2	法令2	102		
73	法令3	法令3	103		
74	法令4	法令4	104		
75	法令5	法令5	105		
76	法令6	法令6	106		
77	法令7	法令7	107		
78	法令8	法令8	108		
79	まとめ1	まとめ	109		
80	まとめ2	まとめ	110		
81	試験1	試験	111		
82	試験2	試験	112		
83			113		
84			114		
85			115		
86			116		
87			117		
88			118		
89			119		
90			120		
91			121		
92			122		
93			123		
94			124		
95			125		

授業外学習	3年次のレポートと下記教科書を見直し復習 60分 4時限分の授業レポートをまとめる為に、1~2時間程度の時間が掛かり、これが一日の復習となる
教科書	エンジン電子制御装置(日本自動車整備振興会連合会) シャシ電子制御装置(日本自動車整備振興会連合会) 自動車新技術(日本自動車整備振興会連合会) 総合診断・環境保全・安全管理(日本自動車整備振興会連合会) 法令教材(日本自動車整備振興会連合会)
教材	なし
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 授業レポートを提出しなければ、試験を受験出来ない。 試験は、実技試験があり、合格点は100点満点の70点以上取らなければ、進級、卒業は出来ない。 不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。 総合評価は、実技試験の点数で評価する。

トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	1級自動車科・1級専攻科	実務経験を有する教員による授業 ○	
科目名	接客コミュニケーション	分類	必修・選択必修・選択
履修時期	4年3学期(1級専攻科2年3学期)	時限数	24 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 時限 実習: 24 時限 1時限は、90分
授業内容	受付・問診・作業説明等の実践的な接客技法を修得する。		
修得目標	受付・問診技法を確実に実施出来る 整備内容の説明が確実に実施出来る 点検結果からお客様にアドバイスをすることが出来る		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	接客対応の基本	基本的心得、基本用語、相手を理解するためのポイント	31		
2	受付	依頼書準備・作成、依頼箇所確認、履歴確認	32		
3	問診	故障情報の把握	33		
4	整備内容説明1	故障状況・原因説明、修理内容説明、交換部品提示	34		
5	整備内容説明2	整備料金説明、追加整備料金説明、精算	35		
6	アドバイスと質問への対応1	アドバイスの必要性と基本項目、使用状況に合わせたアドバイス	36		
7	アドバイスと質問への対応2	お客様が疑問を持ちやすいポイント、相手に合わせた説明手法	37		
8	ロールプレイング①1	口述試験練習問題①	38		
9	ロールプレイング①2	「走行中、異音がする」に関する問診	39		
10	ロールプレイング①3	「ステアリングが重い」と12ヶ月定期点検、整備内容説明	40		
11	ロールプレイング②1	口述試験練習問題②	41		
12	ロールプレイング②2	「エンジンのかかりが悪い」に関する問診	42		
13	ロールプレイング②3	「高速道路でフラフラする」と12ヶ月定期点検、整備内容説明	43		
14	ロールプレイング③1	口述試験練習問題③	44		
15	ロールプレイング③2	「車がまっすぐ走らない」に関する問診	45		
16	ロールプレイング③3	「エンジンの力が無い」と12ヶ月定期点検、整備内容説明	46		
17	ロールプレイング④1	口述試験練習問題④	47		
18	ロールプレイング④2	「マフラーから煙が出る」に関する問診	48		
19	ロールプレイング④3	「方向指示器の点滅が早い」と12ヶ月定期点検、整備内容説明	49		
20	ロールプレイング⑤1	口述試験練習問題⑤	50		
21	ロールプレイング⑤2	「走行中、音が大きい」に関する問診	51		
22	ロールプレイング⑤3	「発進時、加速が悪い」と12ヶ月定期点検、整備内容説明	52		
23	実技試験1	実技試験	53		
24	実技試験2	実技試験	54		
25			55		
26			56		
27			57		
28			58		
29			59		
30			60		

授業外学習	「総合診断」レポートの確認 60分 4時限分の授業レポートをまとめる為に、1～2時間程度の時間が掛かり、これが一日の復習となる
教科書	総合診断・環境保全・安全管理(日本自動車整備振興会連合会)
教材	なし
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 授業レポートを提出しなければ、試験を受験出来ない。 試験は、実技試験があり、合格点は100点満点の70点以上取らなければ、進級、卒業は出来ない。 不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。 総合評価は、実技試験の点数で評価する。